

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年3月26日
【事業年度】	第58期（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	美樹工業株式会社
【英訳名】	MIKIKOGYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡田 尚一郎
【本店の所在の場所】	兵庫県姫路市東延末二丁目50番地
【電話番号】	079（281）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 魚澤 誠治
【最寄りの連絡場所】	兵庫県姫路市東延末二丁目50番地
【電話番号】	079（281）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 魚澤 誠治
【縦覧に供する場所】	美樹工業株式会社 大阪支店 （大阪市中央区道修町三丁目6番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1)連結経営指標等

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月	2019年12月
売上高 (千円)	30,531,185	31,436,383	31,948,962	29,470,596	29,887,483
経常利益 (千円)	2,008,379	2,038,672	1,891,388	1,292,575	1,371,332
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,074,738	1,273,264	1,305,952	712,823	1,071,290
包括利益 (千円)	1,218,382	1,430,810	1,364,899	709,145	1,121,681
純資産額 (千円)	10,315,617	11,638,386	12,852,166	13,410,312	14,413,746
総資産額 (千円)	28,116,681	27,378,766	29,925,507	29,085,654	27,678,836
1株当たり純資産額 (円)	810.79	9,189.17	10,255.96	10,753.07	11,638.67
1株当たり当期純利益 (円)	98.27	1,164.39	1,194.47	652.02	979.93
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.54	36.70	37.47	40.42	45.97
自己資本利益率 (%)	12.83	13.46	12.29	6.21	8.75
株価収益率 (倍)	4.24	3.95	4.17	5.47	4.29
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,438,973	2,865,295	989,453	1,351,816	1,361,456
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,194,022	120,407	203,277	540,029	1,155,211
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	793,169	1,912,996	181,798	1,490,279	2,015,997
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,688,139	2,520,031	1,509,098	1,910,664	2,411,335
従業員数 (人)	587	594	577	598	577
(外、臨時雇用者数)	(83)	(106)	(95)	(94)	(101)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 2017年7月1日付けで普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、第55期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月	2019年12月
売上高 (千円)	14,203,734	16,194,720	18,068,854	16,224,102	16,339,373
経常利益 (千円)	1,339,206	1,571,239	1,590,441	1,115,334	1,183,360
当期純利益 (千円)	853,248	1,023,021	1,180,150	643,920	998,071
資本金 (千円)	764,815	764,815	764,815	764,815	764,815
発行済株式総数 (株)	11,532,630	11,532,630	1,153,263	1,153,263	1,153,263
純資産額 (千円)	6,811,860	7,737,879	8,782,989	9,260,541	10,155,603
総資産額 (千円)	16,689,676	16,003,931	17,635,792	16,741,096	15,755,806
1株当たり純資産額 (円)	622.88	7,077.21	8,033.58	8,470.69	9,289.95
1株当たり配当額 (円)	8.00	13.00	85.00	100.00	140.00
(うち1株当たり中間配当額)	(4.00)	(5.00)	(5.00)	(50.00)	(50.00)
1株当たり当期純利益 (円)	78.02	935.55	1,079.41	588.99	912.95
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	40.81	48.35	49.80	55.32	64.46
自己資本利益率 (%)	13.28	14.06	14.29	7.14	10.28
株価収益率 (倍)	5.35	4.92	4.62	6.05	4.61
配当性向 (%)	10.25	13.90	12.04	16.98	15.33
従業員数 (人)	237	275	272	270	269
(外、臨時雇用者数)	(5)	(5)	(5)	(4)	(8)
株主総利回り (%)	127.2	144.0	159.4	119.9	143.3
(比較指標：ジャスダックインデックス)	(110.1)	(116.9)	(166.9)	(130.2)	(165.9)
最高株価 (円)	452	510	5,500 (470)	5,390	4,340
最低株価 (円)	290	302	4,270 (423)	3,290	3,445

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第55期の1株当たり配当額には、特別配当3円を含んでおります。

4. 第56期の1株当たり配当額には、特別配当30円を含んでおります。

5. 第58期の1株当たり配当額には、特別配当40円を含んでおります。

6. 2017年7月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、第55期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

7. 第56期の1株当たり配当額85円は、中間配当額5円と期末配当額80円の合計となります。当社は、2017年7月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しておりますので、中間配当額5円は株式併合前の配当額、期末配当額80円は株式併合後の配当額となります。なお、株式併合後の基準で換算した第56期の1株当たり配当額は130円となります。

8. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

9. 2017年7月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行ったため、第56期の株価については、株式併合後の最高・最低株価を記載し、( )内に株式併合前の最高株価及び最低株価を記載しております。

10. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【沿革】

年月	事項
1952年10月	兵庫県姫路市に建築請負業として三木組を創業
1955年3月	建設業許可登録（兵庫県知事登録(は)第3581号）
1956年10月	大阪ガス株式会社の指定工事会社となる
1962年1月	兵庫県姫路市に美樹建設株式会社（資本金3,000千円 現美樹工業株式会社）及び美樹設備工業株式会社（資本金1,000千円）を設立
1970年9月	兵庫県姫路市にハイデッキ株式会社（資本金8,800千円）を設立
1971年1月	美樹建設株式会社、美樹設備工業株式会社を合併し、商号を美樹工業株式会社とする（資本金9,000千円）
1972年3月	兵庫県姫路市に積水化学工業株式会社の代理店として、はりまハウジング株式会社（資本金10,000千円、現セキスイハイム山陽株式会社）を設立
1972年4月	兵庫県明石市に神戸美樹工業株式会社を設立（資本金8,000千円）
1973年3月	兵庫県明石市に神戸営業所（現神戸支店）を開設（1999年8月に神戸市須磨区に移転、2008年1月に神戸市中央区（現在地）に移転）
1982年6月	一級建築士事務所登録（兵庫県知事登録（57姫1）第18号）
1982年9月	宅地建物取引業による宅地建物取引業者免許を取得（兵庫県知事(1)第450223号）
1986年12月	有限会社野田商会(現三樹エンジニアリング株式会社)を買収
1988年3月	大阪市南区（現中央区）に大阪支店を開設（2007年4月に大阪市中央区に移転）
1988年8月	建設大臣許可（般・特-63）第13346号を取得
1995年4月	神戸美樹工業株式会社を吸収合併
1999年5月	ISO9001・9002の認証を取得
1999年6月	協和工業株式会社の営業権取得
1999年8月	神戸市東灘区に御影営業所（神戸東支店）を開設（2008年6月に神戸支店に移転・統合）
1999年12月	兵庫県三木市に三木営業所を開設
2001年4月	兵庫県姫路市にセキスイハイム山陽株式会社の100%子会社として、セキスイファミエス山陽株式会社（資本金10,000千円）を設立
2002年4月	セキスイハイム山陽株式会社において「セキスイツーユーホーム」の販売権を取得
2003年10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に上場
2005年1月	兵庫県姫路市にセキスイハイム山陽株式会社の100%子会社として、株式会社山陽リアルエステート（資本金10,000千円）を設立
2008年10月	セキスイファミエス山陽株式会社の商号を株式会社リブライフ兵庫に変更
2008年10月	株式会社山陽リアルエステートの商号を株式会社リブライフに変更
2009年1月	株式会社リブライフが株式会社リブライフ兵庫を吸収合併
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
2011年6月	株式会社リブライフの株式30%を取得
2012年7月	茨城県つくば市に「美樹工業つくばメガソーラー発電所」を新設
2013年6月	兵庫県加西市に「美樹工業加西第一・第二メガソーラー発電所」を新設
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
2013年7月	茨城県つくば市に「美樹工業つくば白水湖メガソーラー発電所」を新設
2014年10月	三木営業所を兵庫県小野市に移転し北播磨営業所に名称変更
2016年1月	下村建設株式会社より建設事業を譲受
2016年4月	大阪支店を大阪市西区に移転
2017年9月	大阪支店を大阪市中央区に移転

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社3社及び持分法適用関連会社1社により構成されており、総合建設業として建設工事、設備工事、住宅の建築・販売及び不動産賃貸等の事業展開を行っております。

当社グループの事業に係る位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

#### 1) 建設事業

当社において、建築工事、土木工事及び都市ガス導管敷設工事とそれに係る道路保全・維持管理等の工事を行っております。

建築工事	公共施設、商業施設、マンション、事務所及び倉庫等の施工を行っております。
土木工事	国や県、市町村の発注による河川・公園の施工、下水道、道路建設及び舗装・宅地造成工事等を行っております。
ガス導管敷設工事	大阪ガス(株)の指定工事会社として都市ガス導管の新規敷設工事や経年管の入れ替え・移転工事の施工を行っております。また、道路保全として大阪ガス(株)等から発注されたガス管敷設工事に係る道路舗装工事等やエボ工法(注)を用いたマンホール鉄蓋修繕工事の施工を行っております。その他維持管理業務として、ガス保安を目的とした点検、他の埋設管工事(例えば下水道管等)において既埋設ガス管が影響する場合の立会い等を行っております。 (注)ダイヤモンドカット円形切断技術による修繕工法であります。

#### 2) 設備事業

当社において、敷地内や建物内等のガス配管工事やガス温水冷暖房システム等のガス設備工事及び給排水工事、ビル等の空調設備工事を行っております。また、連結子会社三樹エンジニアリング(株)においてガス機器の販売及び施工を行っております。

ガス設備工事	敷地内や建物内等のガス配管工事や、大阪ガス(株)が販売するガス機器、住宅設備機器の施工を行っております。
給排水衛生空調設備工事	公共施設、商業施設、マンション等の大型工事において給水・給湯・排水・冷暖房工事を行い、保守・点検・修理とメンテナンス体制を整えております。また、ビルのスプリンクラー等の消防設備工事の施工を行っております。 戸建住宅においても同様の施工を行っており、道路を掘削しての水道配管工事の施工を併せて行っております。

#### 3) 住宅事業

連結子会社セキスイハイム山陽(株)において、積水化学工業(株)のユニット住宅「セキスイハイム(鉄骨系ユニット住宅)」「セキスイツーユーホーム(木質系ユニット住宅)」の建築・販売及びユニット住宅のリフォーム工事の施工、連結子会社(株)リライフにおいて戸建住宅の建築・販売を行っております。

#### 4) 不動産賃貸事業

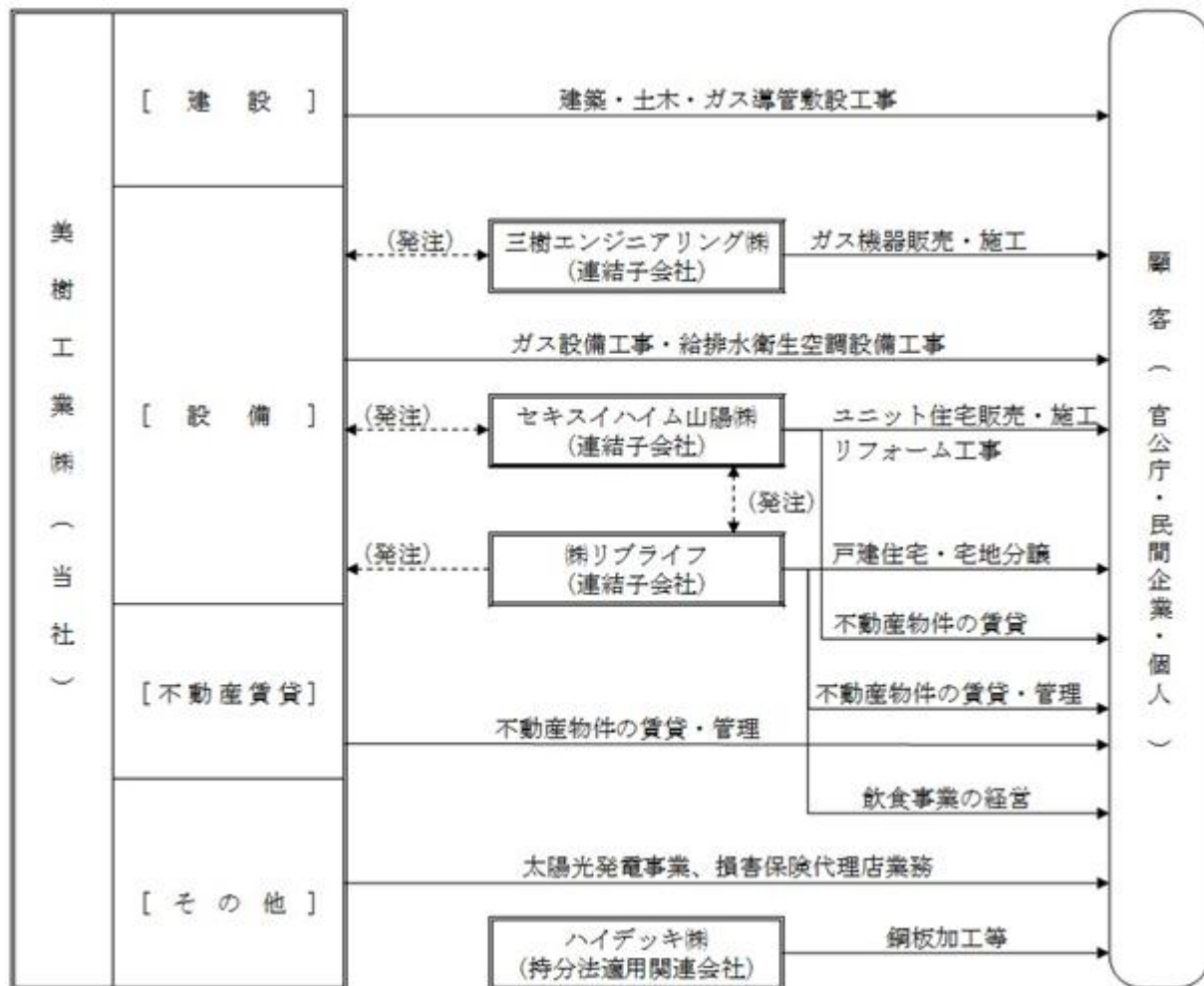
当社及び連結子会社(株)リライフにおいて、不動産物件の賃貸及び管理を行っております。また、連結子会社セキスイハイム山陽(株)において不動産物件の賃貸を行っております。

#### 5) その他事業

当社において、太陽光発電事業及び損害保険代理店業務を行っております。

また、連結子会社(株)リライフにおいて飲食事業の経営を行い、持分法適用関連会社ハイデッキ(株)において、鋼板加工等を行っております。

[ 事業系統図 ]



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) セキスイハイム山陽 株式会社(注)2, 4	兵庫県姫路市	100	住宅事業 不動産賃貸事業	56.7	当社が設備工事等を請負って おります。 役員の兼任あり。
株式会社リブライフ (注)2, 3, 5	兵庫県姫路市	80	住宅事業 不動産賃貸事業 その他事業	100.0 (70.0)	当社が設備工事等を請負って おります。 役員の兼任あり。
三樹エンジニアリング 株式会社	神戸市兵庫区	20	設備事業	100.0	当社の設備関係の工事を請 負っております。 役員の兼任あり。
(持分法適用関連会社) ハイデッキ株式会社	兵庫県姫路市	16	その他事業	29.6	役員の兼任あり。

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有による議決権の所有割合で内数であります。

4. セキスイハイム山陽株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	9,867,163千円
	(2) 経常利益	98,768千円
	(3) 当期純利益	81,245千円
	(4) 純資産額	3,427,868千円
	(5) 総資産額	8,340,712千円

5. 株式会社リブライフについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	3,291,255千円
	(2) 経常利益	77,058千円
	(3) 当期純利益	32,717千円
	(4) 純資産額	841,441千円
	(5) 総資産額	3,419,760千円

## 5【従業員の状況】

### (1)連結会社の状況

2019年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
建設事業	172 (6)
設備事業	110 (2)
住宅事業	237 (21)
不動産賃貸事業	34 (2)
その他事業	10 (69)
全社(共通)	14 (1)
合計	577 (101)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (2)提出会社の状況

2019年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
269 (8)	42.1	11.6	5,643,561

セグメントの名称	従業員数(人)
建設事業	172 (6)
設備事業	79 (1)
住宅事業	- (-)
不動産賃貸事業	- (-)
その他事業	4 (-)
全社(共通)	14 (1)
合計	269 (8)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。
2. 平均年間給与は基準外賃金及び賞与を含めております。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (3)労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社の経営理念は「信用第一」であります。

お客様が期待される品質・納期にお応えするとともに、施工後の顧客満足度を図るべく「CSアンケート」を継続的に実施し、細やかな対応を行うことによる「顧客からの信用」、施工に際して周辺地域・住民の皆様から支持を得られる施工管理や地域に根ざした奉仕活動の継続による「地域からの信用」、法令遵守のみならず安全面・環境面・情報開示を通じた「社会からの信用」、そして社員全員が当事者意識をもって目標達成することによる「社内の信用」、これらの信用の高揚を経営の基本としております。また、原価率の低減及び経営基盤の拡充に努め、企業として安定した収益の成長を続けることにより、株主の皆様への期待に応えていきます。

#### (2) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループの成長戦略の観点から、収益力の向上、人材の確保と育成、企業価値の向上及び財務体質の強化を重要な課題と考えております。

その基本的な施策は以下のとおりであります。

##### 収益力の向上

###### ・原価率の低減

公共工事の削減等により激化する受注競争において、原価率の低減は当社にとっての重要課題であるものと認識し、各事業毎に原価率の目標を設定し、毎月の経営会議において分析を行っております。

###### ・経営の合理化

事業統合等による徹底した合理化・経費削減に取り組み、経営効率化を推進することにより、収益性・効率性が高い事業基盤を構築してまいります。

##### 人材の確保と育成

事業の安定化及び拡大を図るためには、優秀な人材を継続的に確保し、育成することが重要であると認識しております。業務に関する専門的スキルと全体を統括するマネジメント力を兼ね備えた人材を確保するため、教育研修・人材育成の充実に取り組んでまいります。

##### 企業価値の向上

###### ・環境保護

環境保護に関しましては、さまざまな事業分野や日常業務において環境保護のための業務の遂行に、更に取り組みます。

###### ・顧客満足度の向上

個々の技術力向上などにより工事品質をさらに高め、顧客のニーズに応えることにより、顧客満足度の向上を図ります。

##### 財務体質の改善

安定した収益の確保を図るとともに、販売用不動産の早期売却などにより有利子負債の削減を着実にを行い、自己資本の充実に努めます。

#### (3) 経営上の目標達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、安定的な成長を目指すため、一層の経営体質強化に向けた利益重視の観点から売上高経常利益率を重要な経営指標としております。グループ全体の売上高経常利益率5.0%以上、当社個別での売上高経常利益率6.0%以上を目標値としてその達成に努めております。

#### (4) 経営環境

当社グループを取り巻く経営環境は、経済政策の着実な実施等から、公共投資、民間設備投資は堅調に推移しているものの、労務費等は引き続き上昇を続けており、コストの問題は依然として改善が見られず、経営環境は不透明な状況であります。

#### (5) 会社の対処すべき課題

当社の経営戦略上の対処すべき課題としましては、営業展開の強化を計画していることから、人材及び施工能力の確保が重要課題であるものと認識しております。

また、収益率向上のためには、各事業における業務の更なる効率化が課題であり、内部管理体制の強化を図ります。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 法的規制等について

当社グループの属する建設業界及び不動産業界は、建設業法、建築基準法、建築士法、宅地建物取引業法、国土利用計画法、都市計画法及び住宅の品質確保の促進等に関する法律等により法的規制を受けております。

今後、これらの法律等の改正によっては、当社グループの経営成績に重要な影響が及ぶ可能性があります。

また、これらの法律等に基づき付与されている許認可や登録について、現時点においては取消しや有効期間の更新が不可能となる事業または可能性は存在してはおりませんが、将来何らかの事由により取消しや更新ができなかった場合等には、当社グループの経営成績に重要な影響が及ぶ可能性があります。

### (2) 建設・住宅・設備業界について

建設業界は、国や県市町村による公共投資、民間の設備投資・住宅投資に業績が左右される傾向があります。

公共投資の削減や、企業の設備投資の見直し及び雇用不安による民間建設投資の減少により、当社の経営成績に影響を与える可能性があります。

また、住宅の施工・販売においては、購買者の住宅購入動向に左右される傾向があります。雇用不安による所得見通しの悪化、大幅な金利の上昇及び大幅な地価の下落等や、現在の住宅借入金等特別控除制度の変更又は廃止等による住宅需要動向の減退や購入時期の変更等から、当社グループの経営成績に重要な影響が及ぶ可能性があり、販売用不動産の販売期間の長期化や販売在庫の増大により、当社グループの財政状態に重要な影響が及ぶ可能性があります。

### (3) 不動産賃貸について

当社グループは、商業用及び居住用に土地・建物の賃貸を行っております。賃貸物件の周辺地域の賃貸借条件や需給環境、その他何らかの原因によりその賃貸借契約の内容変更や解除が発生した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える場合があります。また、新規に賃貸を目的とする不動産を取得した場合や既存物件における賃貸の開始及び賃貸借条件の変更等において、その開発や賃貸借契約の締結・変更が予定どおり進まなかった場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の影響等による海外経済の減速から外需が弱含みの状況で推移しましたが、雇用・所得の改善に加えて消費増税の対策措置により景気は緩やかな回復基調が続きました。

しかしながら、英国のEU離脱問題などの影響による経済の不確実性等、留意が必要な状況が続いています。

建設業界におきましては、分譲マンション等の住宅着工戸数は減少しているものの、既存建物の維持・修繕工事、省エネルギー対策や防災機能に関する工事は堅調に推移しております。しかしながら、建設資材や労務費の高騰に加えて、人材不足の問題は依然として解消されておらず、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### イ．財政状態

当連結会計年度末の資産合計につきましては、前連結会計年度末に比べ1,406,817千円減少し、27,678,836千円となりました。

当連結会計年度末の負債合計につきましては、前連結会計年度末に比べ2,410,251千円減少し、13,265,090千円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計につきましては、前連結会計年度末に比べ1,003,434千円増加し、14,413,746千円となりました。

#### ロ．経営成績

売上高につきましては、当社の建設事業セグメントにおいて工事の進捗率の影響から完成工事高が減少したものの、設備事業セグメントにおいて工事の進捗による完成工事高の増加や連結子会社であるセキスイハイム山陽株式会社及び株式会社リブライフの売上高の増加に伴い、連結売上高は前年同期比1.4%増の29,887,483千円となりました。

利益につきましては、売上高の増加により、連結営業利益は前年同期比1.8%増の1,344,431千円、連結経常利益は前年同期比6.1%増の1,371,332千円となりました。また、事業用資産の売却に伴う固定資産売却益の計上に伴い、税金等調整前当期純利益は前年同期比40.9%増の1,555,753千円となりました。法人税等合計439,805千円、非支配株主に帰属する当期純利益44,657千円を加減した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比50.3%増の1,071,290千円となりました。なお、その他の包括利益を加味した結果、連結包括利益は前年同期比58.2%増の1,121,681千円となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、下記のセグメント別営業損益には、セグメント間の内部取引に係る金額を含んでおります。

##### < 建設事業 >

建設事業セグメントに関しましては、工事の進捗等による影響に伴い、売上高は前年同期比3.4%減の10,840,382千円となりました。

営業利益につきましては、工事原価の低減に努めた影響から、前年同期比4.2%増の641,233千円となりました。

##### < 設備事業 >

設備事業セグメントに関しましては、当社において工事の進捗等による影響に伴い、売上高は前年同期比10.1%増の5,288,126千円、営業利益は前年同期比10.1%増の204,541千円となりました。

<住宅事業>

住宅事業セグメントに関しましては、連結子会社であるセキスイハイム山陽株式会社において分譲用地の売上が増加した影響等から、売上高は前年同期比3.1%増の11,499,543千円となりました。しかしながら、販売費及び一般管理費の増加による影響から、営業損失117,065千円（前年同期は営業損失186,736千円）となりました。

<不動産賃貸事業>

不動産賃貸事業セグメントに関しましては、当社及び連結子会社であるセキスイハイム山陽株式会社において事業用資産を前期末から当期末にかけて売却した影響により、売上高は前年同期比2.1%減の1,552,927千円、営業利益は前年同期比17.2%減の392,156千円となりました。

<その他事業>

その他事業セグメントに関しましては、売上高は前年同期比1.3%減の706,504千円となりました。

営業利益につきましては、売上高の減少に加えて、飲食事業において販売費及び一般管理費が増加した影響から、前年同期比2.5%減の220,986千円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、前連結会計年度末に比べ財務活動により2,015,997千円減少しましたが、営業活動により1,361,456千円、投資活動により1,155,211千円増加した結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は500,671千円増加し、2,411,335千円となりました。

主な要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少532,582千円及び売上債権の増加200,583千円等の減少要因がありますが、税金等調整前当期純利益1,555,753千円及びたな卸資産の減少556,262千円等の増加要因により、資金は1,361,456千円の増加（前連結会計年度は1,351,816千円の増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出419,630千円等の減少要因がありますが、有形固定資産の売却による収入1,537,534千円等の増加要因により、資金は1,155,211千円の増加（前連結会計年度は540,029千円の増加）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入420,000千円等の増加要因がありますが、長期借入金の返済による支出1,839,960千円及びの短期借入金の減少380,000千円等の減少要因により、資金は2,015,997千円の減少（前連結会計年度は1,490,279千円の減少）となりました。

生産、受注及び販売の状況

イ．生産実績

当社グループでは生産実績を定義することが困難であるため、「生産の状況」は記載しておりません。

ロ．受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
建設事業	11,335,464	95.0	7,778,711	107.4
設備事業	4,812,176	296.7	3,901,282	91.5
住宅事業	10,863,887	85.5	9,722,099	94.4
合計	27,011,527	102.9	21,402,093	98.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

ハ．販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	前年同期比(%)
建設事業(千円)	10,840,382	96.6
設備事業(千円)	5,288,126	110.1
住宅事業(千円)	11,499,543	103.1
不動産賃貸事業(千円)	1,552,927	97.9
その他事業(千円)	706,504	98.7
合計(千円)	29,887,483	101.4

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)		当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
大阪ガス(株)	2,999,928	10.2	3,094,698	10.4

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

なお、参考のため提出会社個別の事業の状況は次のとおりであります。

・受注工事高、完成工事高及び次期繰越工事高

第57期（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

区分	前期繰越工事高 (千円)	当期受注工事高 (千円)	計 (千円)	当期完成工事高 (千円)	次期繰越工事高 (千円)
建築	5,194,213	8,543,436	13,737,649	8,065,189	5,672,459
土木	525,283	1,240,248	1,765,532	965,832	799,699
ガス導管敷設	545,937	2,143,070	2,689,007	1,921,525	767,482
建設	6,265,434	11,926,754	18,192,189	10,952,547	7,239,641
ガス設備	615,043	1,343,776	1,958,819	1,425,593	533,225
給排水衛生空調設備	6,531,679	13,461	6,518,217	2,801,954	3,716,263
設備	7,146,722	1,330,314	8,477,037	4,227,547	4,249,489
リフォーム住宅	188,606	-	188,606	188,606	-
住宅	188,606	-	188,606	188,606	-
計	13,600,763	13,257,069	26,857,833	15,368,702	11,489,130

第58期（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

区分	前期繰越工事高 (千円)	当期受注工事高 (千円)	計 (千円)	当期完成工事高 (千円)	次期繰越工事高 (千円)
建築	5,672,459	8,319,704	13,992,164	7,546,635	6,445,528
土木	799,699	1,086,121	1,885,820	1,261,815	624,005
ガス導管敷設	767,482	1,929,637	2,697,120	1,987,943	709,176
建設	7,239,641	11,335,464	18,575,105	10,796,393	7,778,711
ガス設備	533,225	1,577,661	2,110,887	1,611,292	499,595
給排水衛生空調設備	3,716,263	2,858,753	6,575,017	3,197,249	3,377,767
設備	4,249,489	4,436,415	8,685,905	4,808,541	3,877,363
計	11,489,130	15,771,879	27,261,010	15,604,935	11,656,075

(注) 1. 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額の増減がある場合は、当期受注工事高にその増減額を含めております。また、当期完成工事高にもかかる増減額が含まれております。

2. 次期繰越工事高は(前期繰越工事高+当期受注工事高-当期完成工事)に一致しております。

・完成工事高

期別	区分	官公庁(千円)	民間(千円)	計(千円)
第57期 (自2018年1月1日 至2018年12月31日)	建設	1,185,363	9,767,184	10,952,547
	設備	887,911	3,339,636	4,227,547
	住宅	-	188,606	188,606
	計	2,073,274	13,295,427	15,368,702
第58期 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	建設	1,223,644	9,572,749	10,796,393
	設備	588,922	4,219,618	4,808,541
	計	1,812,567	13,792,368	15,604,935

(注) 1. 完成工事のうち主なものは、次のとおりであります。

第57期 完成工事のうち請負金額1億円以上の主なもの

(発注者)	(工事名称)
姫路市	都市計画道路城北線道路改良工事
姫路市水道事業管理者	太子幹線(第5工区)布設替工事
社会福祉法人逢花	特別養護老人ホーム上新庄逢花苑新築工事
社会福祉法人ラポール会	特別養護老人ホームくみのき苑しらさぎ新築工事
JR西日本不動産開発(株)	高槻高齢者施設新築工事
日本エスリード(株)	姫路市・福沢町新築工事
(株)プレサンスコーポレーション	プレサンス北区天神橋3丁目新築工事
(株)ノーリツ	亥ノ子池水上太陽光発電所工事

第58期 完成工事のうち請負金額1億円以上の主なもの

(発注者)	(工事名称)
近畿地方整備局	名塩道路東久保地区函渠設置他工事
福崎町	福崎駅周辺整備(その2)工事
社会福祉法人恵愛園	特別養護老人ホームオレンジ神戸新築工事
JR西日本不動産開発(株)	西宮上ヶ原NKビル新築工事
サムティ(株)	サムティ西区本田1丁目新築工事
エスリード(株)	豊中市小曾根5丁目新築工事
エスリード(株)	大阪市福島区福島6丁目新築工事
(株)二川工業製作所	(株)二川工業製作所神戸工場新築工事

2. 完成工事高に対する割合が100分の10以上の相手先別の完成工事高及びその割合は、次のとおりであります。

相手先	第57期 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)		第58期 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
大阪ガス(株)	2,916,894	19.11	3,027,198	19.40

・次期繰越工事高（2019年12月31日現在）

区分	官公庁（千円）	民間（千円）	計（千円）
建設	3,834,597	3,944,114	7,778,711
設備	161,111	3,716,252	3,877,363
計	3,995,708	7,660,366	11,656,075

（注）次期繰越工事のうち請負金額1億円以上の主なものは、次のとおりであります。

（発注者）	（工事名称）
姫路市	(仮称)南部エリア学校給食センター整備及び運営事業(施設整備業務)
たつの市	たつの市本庁舎建設工事
社会福祉法人弘道福祉会	社会福祉法人弘道福祉会(仮称)尼崎ラガール新築工事
日本郵便(株)	姫路郵便局模様替工事
蔦機械金属(株)	(仮称)蔦機械金属株式会社広畑工場Ⅰ期工事
J R 西日本不動産開発(株)	京都東九条室町N Kビル新築工事(その2)
(株)二川工業製作所	桜花ソーラーガーデン太陽光発電所工事
(株)二川工業製作所	大岩田太陽光発電所工事
S - P o w e r 神埼(同)	サンテックパワージャパン神埼太陽光発電所設置工事



(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて作成されております。

当社グループの連結財務諸表におきましては、決算日における資産・負債の金額及び報告期間における収益・費用の金額に影響を与える見積りを行っております。具体的には、たな卸資産の評価や貸倒引当金の計上等であり、これらに関しては、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる様々な要因に基づいて行っております。

しかしながら、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと実際の結果が異なる場合があります。

財政状態

イ．資産

当連結会計年度末の資産合計につきましては、当社において事業用資産を売却したことに伴い、有形固定資産が減少したこと等により、27,678,836千円（前連結会計年度末は29,085,654千円）となりました。

ロ．負債

当連結会計年度末の負債合計につきましては、事業用資産の売却に伴う資金を有利子負債の返済に充当し、長期借入金等が減少したことにより、13,265,090千円（前連結会計年度末は15,675,342千円）となりました。

ハ．純資産

当連結会計年度末の純資産合計につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加等により、14,413,746千円（前連結会計年度末は13,410,312千円）となりました。

経営成績

イ．売上高及び売上総利益

当連結会計年度の売上高につきましては、当社の建設事業セグメントにおいて工事の進捗率の影響から完成工事高が減少したものの、設備事業セグメントにおいて工事の進捗による完成工事高の増加や連結子会社であるセキスイハイム山陽株式会社及び株式会社リブライフの売上高の増加に伴い、前連結会計年度より416,886千円増加し、29,887,483千円となりました。

また、売上総利益につきましては、売上高の増加により、前連結会計年度より158,349千円増加し、6,429,020千円となりました。

ロ．販売費及び一般管理費及び営業利益

当連結会計年度の販売費及び一般管理費につきましては、当社において採用関連に伴う費用が増加したことや、連結子会社であるセキスイハイム山陽株式会社において展示場の建替による費用計上の影響等から、前連結会計年度より134,017千円増加し、5,084,588千円となりました。

以上の結果、当連結会計年度における営業利益につきましては、前連結会計年度より24,331千円増加し1,344,431千円となりました。

ハ．営業外損益及び経常利益

当連結会計年度の営業外収益につきましては、前連結会計年度より13,121千円増加し、67,155千円となりました。

営業外費用につきましては、前連結会計年度より41,304千円減少し、40,254千円となりました。

以上の結果、当連結会計年度における経常利益につきましては、前連結会計年度より78,757千円増加し、1,371,332千円となりました。

## 二．特別損益及び税金等調整前当期純利益

当連結会計年度の特別利益につきましては、当社において固定資産売却益を計上したこと等により483,408千円（前連結会計年度は2,809千円）となりました。

特別損失につきましては、当社及び連結子会社において減損損失294,157千円、連結子会社において固定資産除却損4,830千円を計上したこと等により、298,987千円（前連結会計年度は190,915千円）となりました。

以上の結果、当連結会計年度の税金等調整前当期純利益につきましては、前連結会計年度より451,283千円増加し、1,555,753千円となりました。

## ホ．親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、税金等調整前当期純利益より法人税等合計439,805千円、非支配株主に帰属する当期純利益44,657千円を控除した結果、前連結会計年度より358,467千円増加し、1,071,290千円となりました。

## キャッシュ・フローの状況

「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

## 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

## 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、工事の施工に要する外注費等の工事費や販売費及び一般管理費等の営業費用によるものであります。投資を目的とした資金需要のうち主なものは、設備投資によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資資金の調達につきましては自己資金及び金融機関からの長期借入を基本としております。

当社グループにおける重要な資本的支出の予定については、「第3 設備の状況 3 設備の新設、除却等の計画」に記載のとおりであります。

## 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、売上高経常利益率を重要な経営指標としております。当連結会計年度は、販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高の増加に加え建設コストの低減に努めたことに加えて、営業外費用が前連結会計年度より減少したことから、売上高経常利益率は4.6%と前年同期の4.4%を上回りました。引き続きこれらの指標について、改善されるように取り組んでまいります。

#### 4【経営上の重要な契約等】

##### (1) 工事請負契約

契約会社名	相手先名	契約年月	契約の内容	契約期間
提出会社	大阪ガス株式会社	1956年10月	ガス供給工事請負契約	1年間 (注)

(注) 契約期間満了の1カ月前までに双方から何等の申出がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以降も同様とすることになっております。

##### (2) 販売代理店契約

契約会社名	相手先名	契約年月	契約の内容	契約期間
セキスイハイム山陽株式会社	積水化学工業株式会社	1972年10月	兵庫県姫路市他9市、5郡におけるユニット住宅「セキスイハイム」の販売に関する代理店契約	2年間 (注)1

(注) 1. 契約期間満了の1カ月前までに双方から何等の申出がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以降も同様とすることになっております。

2. 2002年4月にセキスイハイム大阪(株)より木質系ユニット住宅「セキスイツーユーホーム」の営業に関する一切の商権を譲り受けております(エリアは「セキスイハイム」と同一)。

##### (3) 業務委託契約

契約会社名	相手先名	契約年月	契約の内容	契約期間
三樹エンジニアリング株式会社	大阪ガス株式会社	1999年8月	開栓、閉栓等保安維持の業務委託契約 ガス器具等に関する業務	1年間 (注)

(注) 契約期間満了の3カ月前までに双方から何等の申出がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以降も同様とすることになっております。

#### 5【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）の当連結会計年度の設備投資額は439,388千円であります。

セグメント別では、建設事業において46,169千円、設備事業において252,120千円、住宅事業において127,463千円、不動産賃貸事業において6,650千円、その他事業において6,983千円の設備投資を実施しました。

当連結会計年度の主な設備投資は、連結子会社である三樹エンジニアリング株式会社における新社屋土地・建物の取得及び連結子会社であるセキスイハイム山陽株式会社における展示場の新設に伴う設備投資であります。

なお、不動産賃貸事業において賃貸物件の一部を売却したことに伴い、減損損失113,734千円、固定資産売却益454,319千円を計上しております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2019年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)	
			建物・ 構築物	機械・ 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
本社(注)5 (兵庫県姫路市)	建設・設備 全社	事務所 倉庫	62,693	952	957,535 (5,584.20)	18,929	9,276	1,049,388	163 (4)
神戸支店 (神戸市中央区)	建設・設備	事務所 倉庫	99,169	0	425,767 (3,300.00)	2,838	1,589	529,364	67 (3)
大阪支店(注)3 (大阪市中央区)	建設	事務所	11,991	0	- [532.37]	-	3,015	15,007	34 (1)
美樹ビル (兵庫県姫路市)	全社・その他	事務所	781,162	813	373,174 (537.39)	-	629,759	1,784,909	3
京都物件 (京都市左京区)	不動産賃貸	賃貸不動産	452,304	0	460,000 (1,254.37)	-	2,310	914,614	-
姫路事業用地(注)3 (兵庫県姫路市)	不動産賃貸	貸地	-	-	1,067,137 (10,684.71) [8,283.33]	-	-	1,067,137	-
賃貸物件ほか(注)3 (兵庫県姫路市ほか)	不動産賃貸	賃貸不動産	58,221	-	193,485 (1,184.46) [2,305.65]	-	-	251,707	-
太陽光発電施設(注)3 (茨城県つくば市ほか)	その他	太陽光発電 施設	81,099	773,006	1,268,965 (60,065.00) [24,675.00]	-	3,330	2,126,401	2

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含めておりません。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具・備品及びソフトウェアであります。また、建設仮勘定は含めておりません。

3. 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借している土地の面積については[ ]で外書きしております。なお、年間の賃借料は以下のとおりです。

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	年間の賃借料(千円)
大阪支店	建設	事務所	36,717
姫路事業用地	不動産賃貸	貸地	44,832
賃貸物件ほか	不動産賃貸	賃貸不動産	22,134
太陽光発電施設	その他	太陽光発電施設	2,013

4. 従業員数の( )は、臨時雇用者数を外書しております。

5. 提出会社の本社の中には、本社新社屋建設用地として取得した土地577,179千円(3,743.15㎡)を含んでおります。

(2)国内子会社

2019年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
				建物・ 構築物	機械・ 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
セキスイハイム 山陽㈱	本社ほか (兵庫県姫路市 ほか)	住宅 不動産賃貸	賃貸不動産 住宅展示棟 事務所ほか	1,314,716	0	2,288,994 (26,251.15)	90,010	59,654	3,753,375	199 (19)
㈱リライフ	高砂地区ほか (兵庫県高砂市 ほか)	住宅 不動産賃貸 その他	賃貸不動産 住宅展示棟 ほか	66,476	-	2,023,587 (40,755.84)	-	3,277	2,093,341	78 (73)
三樹エンジニア リング㈱	本社 (神戸市兵庫区)	設備	事務所	64,377	0	164,651 (570.33)	2,213	2,225	233,468	31 (1)

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等を含めておりません。  
2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具・備品及びソフトウェアであります。また、建設仮勘定は含めておりません。  
3. 従業員数の( )は、臨時雇用者数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資に関する計画については、原則として連結子会社各社が個別に策定し、実行しております。ただし、重要なものについては、提出会社を中心に調整を図っております。

(1) 重要な設備の新設等

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定 年月	
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了
提出会社	兵庫県 姫路市	建設・設 備・全社	新社屋	2,277,179	629,720	自己資金 及び借入 金	2019.12	2021.3

(注) 上記金額には消費税等は含んでおりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000,000
計	4,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年3月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,153,263	1,153,263	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株でありま す。
計	1,153,263	1,153,263	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライププランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2017年7月1日 (注)	10,379,367	1,153,263	-	764,815	-	705,825

(注) 株式併合(10:1)によるものであります。

#### (5)【所有者別状況】

2019年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地方 公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	5	13	21	13	-	1,642	1,694	-
所有株式数 (単元)	-	217	316	1,021	551	-	9,416	11,521	1,163
所有株式数の 割合(%)	-	1.88	2.74	8.86	4.78	-	81.74	100.00	-

(注) 1. 自己株式60,081株は「個人その他」の欄に600単元、「単元未満株式の状況」の欄に81株を含めて記載して  
おります。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、4単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
三木 佳美	兵庫県姫路市	1,670	15.28
三木 博也	兵庫県姫路市	1,517	13.88
有限会社フレンド商会	兵庫県姫路市東辻井2丁目3-10	706	6.47
内藤 征吾	東京都中央区	340	3.11
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	276	2.52
平野 勝也	兵庫県姫路市	268	2.45
中田 純夫	兵庫県姫路市	240	2.20
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株 式会社	東京都千代田区丸の内2丁目5-2	224	2.05
三木 立子	兵庫県姫路市	214	1.96
福本 久幸	兵庫県姫路市	207	1.89
計	-	5,664	51.81

(注) 上記のほか、自己株式が600百株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 60,000	-	権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,092,100	10,921	同上
単元未満株式	普通株式 1,163	-	-
発行済株式総数	1,153,263	-	-
総株主の議決権	-	10,921	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又 は名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
美樹工業株式会社	兵庫県姫路市東延 末二丁目50番地	60,000	-	60,000	5.20
計	-	60,000	-	60,000	5.20

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	63	257,040
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	60,081	-	60,081	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。

## 3【配当政策】

当社は、株主の皆様へ長期的に安定した配当を継続することを基本方針とし、業績と配当性向及び将来の事業拡大のための内部留保の充実などを総合的に勘案して決定しております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針とし、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当は株主総会、中間配当は取締役会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、1株当たり50円の間配当(普通配当)を実施しました。2019年12月31日を基準日とする期末配当は、普通配当1株当たり50円、特別配当1株当たり40円、合計90円の実施を、2020年3月開催の当社第58期定時株主総会に付議し、可決・承認されました。この結果、当事業年度の配当性向は15.33%となりました。

内部留保資金につきましては、業界環境の厳しい中、財務体質の強化に加え、業績向上及び将来の成長に不可欠な、設備投資、投融資等の資金需要に備える所存であります。

なお、当社は、「取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2019年7月29日 取締役会決議	54,662	50
2020年3月25日 定時株主総会決議	98,386	90



#### 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は会社の永続的な成長・発展のため、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題と認識しており、経営の意思決定の迅速化と業務執行機能の強化及び透明性の高い経営体制を基本方針としております。

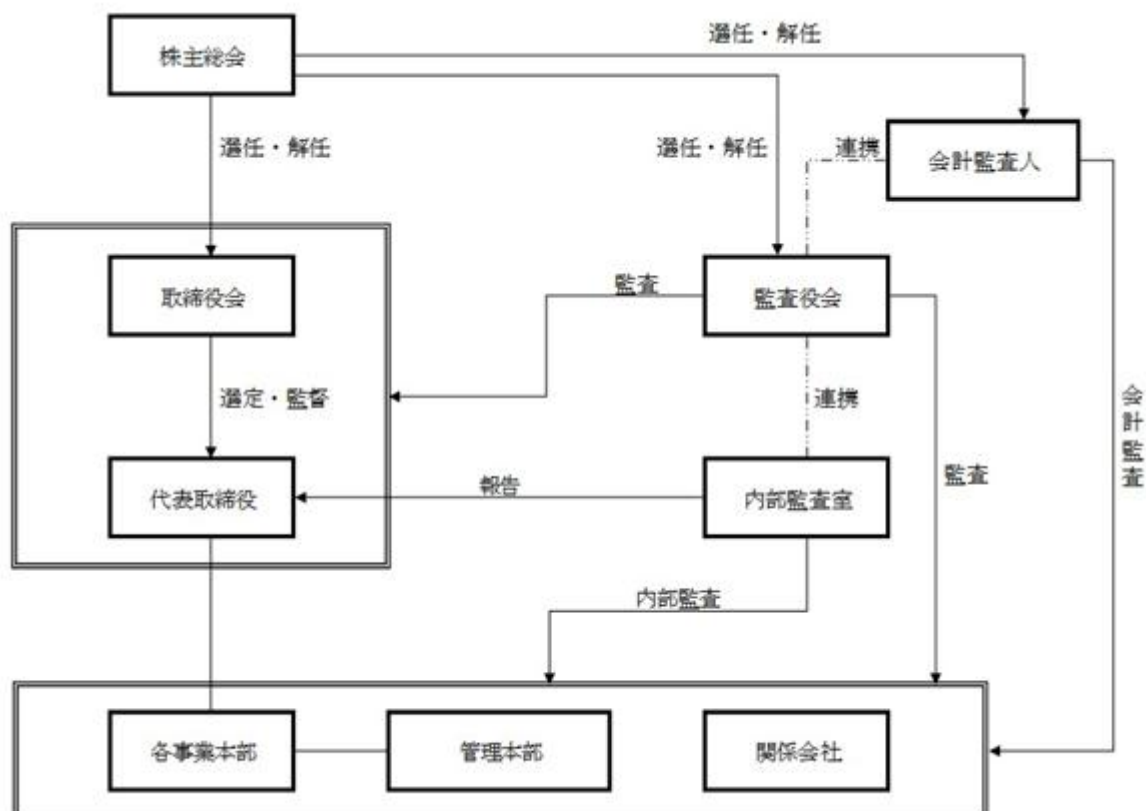
また、透明性の高い経営を行うため、迅速かつ確かなディスクロージャーを実施するための組織作りを行いプレスリリースを行うほか、当社のホームページにおいてもIR情報に関する積極的な開示を行っております。

企業統治の体制及び当該体制を採用する理由

##### イ．企業統治の体制の概要

当社は、監査役制度を採用しており、取締役会及び監査役・監査役会により取締役の職務執行の監督及び監査を行っております。また、当社は、執行役員制度を採用し、取締役会の意思決定機能及び監督機能の強化と業務執行の効率化を図っております。

体制の概要については、次のとおりであります。



##### ・取締役会

3名の社外取締役を含む8名の取締役によって構成され、原則毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の審議・決定を行い、業務の執行状況を監督しております。また、監査役3名も取締役会に出席し、必要に応じ意見を述べ、取締役の業務執行を監査しております。

取締役会の構成員は以下のとおりであり、議長は代表取締役社長の岡田 尚一郎が務めております。

代表取締役社長	岡田 尚一郎	常務取締役	魚澤 誠治
取締役	小川 洋市	取締役	山下 直彦
取締役	瀬川 典弘	社外取締役	岡 成一
社外取締役	園田 学	社外取締役	寺本 真裕美

##### ・監査役会

当社は、監査役制度を採用しております。監査役会は常勤監査役1名及び社外監査役2名の合計3名で構成され、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議・決議を行っております。監査役会は、原則として1ヶ月に1回開催しており、必要に応じ臨時監査役会を適宜開催しております。

監査役会の構成員は以下のとおりであり、議長は常勤監査役の三木 立子が務めております。

常勤監査役	三木 立子	社外監査役	和泉 洋
社外監査役	山本 雅春		

##### ・経営会議

経営会議を原則毎月1回開催し、取締役会を支える機関として、経営に係る重要事項について審議を行っております。なお、当会議は取締役及び執行役員で構成しております。

経営会議の構成員は以下のとおりであり、議長は代表取締役社長の岡田 尚一郎が務めております。

代表取締役社長	岡田 尚一郎	常務取締役	魚澤 誠治
取締役	小川 洋市	取締役	山下 直彦
取締役	瀬川 典弘	執行役員	山口 健司

#### ロ．当該体制を採用する理由

当社は経営環境への迅速な対応、経営の透明性の向上等を達成するため、上記のような企業統治の体制を採用しております。当該体制は経営の監視機能として十分機能しており、当社のガバナンス上最適であると判断しております。

#### 企業統治に関するその他の事項

##### イ．内部統制システムの整備の状況

- ・当社及び子会社の取締役及び使用人の職務の遂行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - ・当社及び子会社の取締役及び使用人は、業務の執行に当たり、関係法令及び社内規程等を遵守し、公正で健全な事業活動を行います。
  - ・上記を徹底するため、「美樹工業グループ行動規範」を当社及び子会社の取締役及び使用人に周知し、同規範に基づき、法令の遵守と公正な事業運営に万全を期します。
  - ・内部監査を行う内部監査室は、毎年、内部監査規程及び内部監査計画に基づき、監査役との緊密な連携を保ちつつ、社内各部門の法令及び社内規程等の遵守状況を含む監査を実施し、その結果を代表取締役社長に報告するとともに、改善を要する事項等がある場合には当該部門に指示します。
- ・取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
  - ・経営の意思決定及び業務の執行に係る議事録等の文書その他の情報については、法令及び社内規程等に従い適切に作成、保存及び管理(廃棄を含む)を行います。
  - ・上記に当たっては、営業情報(販売情報等)の管理、重要な内部情報の管理(適時開示を含む)及び個人情報情報の保護に万全の注意を払います。
- ・当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - ・当社及び子会社の取締役及び執行役員は、リスク管理のための体制や施策等を整備する権限と責任を有し、管理部門担当役員は当社のリスク管理に対する取り組みを横断的に推進します。
  - ・「リスク管理規程」を制定し、当社及び子会社の取締役及び使用人に周知徹底することで、リスクの発生防止に努めるとともに、重大なリスクが発生した場合は、当該管理規程に基づき対策本部を設置し、迅速かつ的確な対応を行います。
  - ・事業計画の策定や設備投資計画の立案に当たっては、事業運営や投資に伴うリスクを適切に把握し、それに対する対応策を課題として織り込むように努めます。
- ・当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - ・取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催するものとし、当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項については、別途経営会議において議論を行い、その審議を経て取締役会決議により執行決定を行います。
  - ・取締役会は、当社及び当社グループに関する特に重要な事項の意思決定を行うほか、経営方針、戦略、計画の審議・決定を行います。執行役員は、取締役会から職務の委嘱を受け、権限委譲された範囲の職務の執行に関し責任を負います。
  - ・取締役及び執行役員の職務分担を明確にし、業務分掌や職務権限に係る社内規程を設け、役割分担や指揮命令関係などを通じて業務の効率的な遂行を図ります。
  - ・係る体制の下、会社の現状と事業環境に即応した機動的な意思決定と業務執行を行います。
- ・当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
  - ・当社グループの事業遂行内容については、当社担当部門が窓口となり定期的な報告を受け、また重要案件については当社と事前協議を行い意思の疎通を図るよう努めております。
  - ・内部監査室は、当社グループが法令及び社内規程等に違反していないか確認するために定期的に監査を行っております。
- ・監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
  - 監査役がその職務を補助すべき専任の使用人(単なる事務処理を行う者ではなく、監査業務を実際に遂行する者をいう。以下同じ)を要請した場合、監査役と協議の上、使用人を設置する等、しかるべき対応を行います。
- ・前号の使用人の取締役からの独立性及び監査役の使用人に対する指示の実行性の確保に関する事項

- ・ 監査役の職務を補助する使用人を置く場合、当該使用人は業務を遂行するにあたり、取締役からの指揮命令を受けないものとします。
- ・ 当該使用人の人事・異動については、事前に監査役の承認を得るものとします。
- 取締役及び使用人が監査役会又は監査役に報告するための体制
  - ・ 取締役及び使用人は、監査役会の定めるところに従い、各監査役の要請に応じて必要な報告又は情報の提供を行うものとします。
  - ・ 取締役及び使用人は、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす恐れのある事実があることを発見した時は、直ちに当該事実を監査役会又は監査役に報告するものとします。
  - ・ 取締役が監査役会又は監査役に報告すべき事項を両者の協議により定めております。
- 子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が監査役会又は監査役に報告するための体制
  - ・ 子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、監査役会の定めるところに従い、各監査役の要請に応じて必要な報告又は情報の提供を行うものとします。
  - ・ 子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす恐れのある事実があることを発見した時は、直ちに当該事実を監査役会又は監査役に報告するものとします。
  - ・ 子会社の取締役が監査役会又は監査役に報告すべき事項を両者の協議により定めております。
- 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制
  - 監査役に報告した者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び子会社の取締役及び使用人に周知徹底しております。
- 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手續、その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
  - 監査役がその職務の執行につき、費用の前払等を請求したときは、請求にかかる費用又は債務が当該監査役職務の執行に関係ないと認められる場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理するものとします。
- その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
  - ・ 監査役は各種の重要会議へ出席し、関係会社を含む関係部署の調査、重要案件の決裁書の確認などにより、その権限が支障なく行使できる社内体制を当社グループ全体に確立しております。
  - ・ 監査役会では、社外監査役を含め、相互の情報提供や意見交換を十分に行います。また、代表取締役と定期的に会合をもち、会社が対処すべき課題、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見を交換し、併せて必要と判断される要請を行うことにより、代表取締役との相互認識を深めております。

#### ロ．リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、各取締役がそれぞれの担当部門に関するリスクの初動の責任を負うものとし、担当部門におけるリスク管理体制を構築し、これに対応するものとしております。また、不測の事態が生じた場合には、社長を対策本部長、関係取締役を本部員とする対策本部を設置し、組織横断的に対応し必要に応じて弁護士等と相談し、迅速かつ的確な対応を行い、リスクに係る損害の拡大を防止する体制を整備することとしております。

#### 八．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、「美樹工業グループ行動規範」を定め、反社会的勢力と関係遮断を宣言するとともに、社内研修を通じて社員に啓蒙活動を行っております。また、総務部が対応窓口となり、警察や弁護士等の外部専門機関からの情報を活用し、反社会的勢力との取引等の未然防止に努めております。

#### 二．取締役の員数

当社の取締役は、2008年3月27日の定時株主総会の決議により、11名以内とする旨定款に定めております。

#### ホ．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって決する旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

#### ヘ．中間配当

当社は、資本政策の機動性を確保するため、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を取締役会の決議により可能とする旨を定款に定めております。

ト．自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

チ．株主総会の特別決議要件

当社は株主総会において定足数を緩和することにより株主総会の運営を円滑に行うことを目的とし、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決する旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性9名 女性2名 (役員のうち女性の比率18.2%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	岡田 尚一郎	1956年10月25日生	1989年7月 当社入社 1998年7月 建築土木営業部長 2002年1月 執行役員 2004年3月 取締役 2005年3月 常務取締役 2006年4月 建設事業本部長 2008年5月 代表取締役専務取締役 2010年3月 代表取締役社長 2014年10月 株式会社リプライフ建設事業部営業部長 2015年3月 当社代表取締役社長(現任) 2015年4月 セキスイハイム山陽株式会社取締役(現任)	(注)1	4,355
常務取締役 管理本部長	魚澤 誠治	1969年9月7日生	2003年4月 当社入社 2005年1月 経営企画室長 2005年11月 株式会社リプライフ監査役(現任) 2009年7月 当社執行役員及び経営企画部長 2010年2月 セキスイハイム山陽株式会社監査役(現任) 2014年2月 三樹エンジニアリング株式会社 監査役(現任) 2014年3月 当社取締役及び管理本部長(現任) 2015年5月 ハイデッキ株式会社取締役(現任) 2019年3月 当社常務取締役(現任)	同上	500
取締役 設備事業本部長	小川 洋市	1961年2月13日生	1981年4月 当社入社 2011年1月 ガス工事部長 2013年5月 設備事業本部長(現任) 2014年3月 執行役員 2017年3月 取締役(現任) 2017年5月 株式会社リプライフ取締役(現任) 2018年2月 三樹エンジニアリング株式会社 取締役(現任)	同上	400
取締役 建設事業本部長	山下 直彦	1972年1月22日生	1994年4月 当社入社 2009年1月 建設事業本部長 2016年1月 大阪営業所部長 2017年1月 執行役員及び建設事業本部長(現任) 2019年3月 取締役(現任)	同上	700
取締役 導管事業本部長	瀬川 典弘	1974年11月18日生	2003年3月 当社入社 2015年3月 道路事業部長 2018年1月 土木事業部長 2018年7月 執行役員及び導管事業本部長(現任) 2020年3月 取締役(現任)	同上	100
取締役	岡 成一	1953年5月6日生	1982年4月 株式会社特殊コンクリート工業入社 1986年4月 東京大学工学部非常勤講師 2013年10月 太陽エコブロックス株式会社入社 2014年6月 太陽サーブ株式会社常務取締役 2015年6月 太陽エコブロックス株式会社取締役 2016年6月 同社常務取締役(現任) 太陽サーブ株式会社専務取締役(現任) 2019年3月 当社取締役(現任)	同上	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	園田 学	1955年4月8日生	1980年4月 株式会社神戸製鋼所入社 2000年1月 同社業務部担当部長 御崎プロジェクト室室長 2009年6月 神鋼不動産株式会社取締役 2016年6月 同社常勤監査役 2019年9月 サラヤ株式会社入社(現任) 2020年3月 当社取締役(現任)	同上	-
取締役	寺本 真裕美	1959年11月3日生	1983年4月 株式会社長谷川工務店 (現株式会社長谷工コーポレーション)入社 2013年4月 株式会社長谷工ライフ執行役員 2016年4月 同社取締役及び常務執行役員 2017年10月 株式会社長谷工管理ホールディングス 執行役員 2018年4月 同社常務執行役員 2019年7月 寺本社会保険労務士事務所代表(現任) 2020年3月 当社取締役(現任)	同上	-
常勤監査役	三木 立子	1962年1月13日生	1983年3月 有限会社フレンド商会取締役(現任) 2004年4月 当社入社 2005年11月 執行役員及び管理本部長 2014年3月 取締役及び内部監査室長 2017年3月 当社監査役(現任)	(注)2	21,421
監査役	和泉 洋	1953年3月14日生	1976年4月 国税庁大阪国税局入局 2004年8月 和泉洋税理士事務所代表(現任) 2015年3月 当社監査役(現任)	(注)3	100
監査役	山本 雅春	1953年9月23日生	1977年11月 新和監査法人 (現有限責任あずさ監査法人)入所 1982年3月 公認会計士登録 2016年7月 公認会計士山本雅春事務所代表(現任) 2019年3月 当社監査役(現任)	同上	-
計					27,576

(注) 1. 2020年3月25日就任後、1年内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結まで。  
2. 2017年3月28日就任後、4年内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結まで。  
3. 2019年3月27日就任後、4年内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結まで。  
4. 取締役 岡 成一、園田 学及び寺本 真裕美は、社外取締役であります。  
5. 監査役 和泉 洋及び山本 雅春は、社外監査役であります。  
6. 所有株式数は自己名義の株式数を表示しております。なお、美樹工業役員持株会の所有株式数は500株であります。

#### 社外役員の状況

##### a. 社外取締役及び社外監査役の員数

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

##### b. 社外取締役及び社外監査役と提出会社との人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係

社外取締役 岡 成一氏は、経営者としての幅広い見識と長年の豊富な経験を活かし、当社の経営判断、意思決定に役割を果たしていただくことを目的に社外取締役として選任しております。

社外取締役 園田 学氏は、会社経営及び監査役に携わられた豊富な経験と高い見識に基づき、適切な助言を得られると判断したため、社外取締役として選任しております。

社外取締役 寺本 真裕美氏は、会社経営及び不動産関連事業に携わられた豊富な経験と高い見識に基づき、適切な助言を得られると判断したため、社外取締役として選任しております。

社外監査役 和泉 洋氏は、税務関連の豊富な知識と経験を活かし、当社の経営に対する監視や適切な助言等をいただくことを目的に社外監査役として選任しております。また、東京証券取引所が定める独立性の要件を満たし、一般株主と利益相反のおそれがないと判断したことから、独立役員に指定しております。

社外監査役 山本 雅春氏は、公認会計士として企業財務に精通し、企業を統治する見識を有しておられることから、当社の経営に対する監視や適切な指導等をいただくことを目的に社外監査役として選任しております。

提出日現在、社外監査役の和泉 洋氏は当社の株式を100株保有しております。これらの関係以外に当社と社外取締役及び社外監査役の間に特別の利害関係はありません。

c. 社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割

当社は、コーポレート・ガバナンスにおいては、外部からの客観的・中立の経営監視の機能が重要と考えております。社外取締役及び社外監査役には、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場で監督又は監査を行って頂くことを期待しております。

d. 社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準及び方針は定めておりませんが、選任にあたっては東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

社外取締役及び社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、それぞれの監督又は監査にあたり必要に応じて、内部監査部門、監査役及び会計監査人と協議・報告・情報交換を行うことにより、相互連携を図っております。また、内部統制部門からも必要に応じて内部統制の状況に関する情報の聴取等を行っています。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役会は常勤監査役1名及び社外監査役2名の合計3名で構成されており、各監査役は、監査役会で決定された監査方針及び監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や、業務及び財産の状況の調査を通じて、取締役の職務遂行を監査しております。監査役会は、内部監査室及び会計監査人と情報連絡や意見交換を行うなど、連携を密にして監査の実効性並びに効率性を高めております。

内部監査の状況

内部監査部門としましては、代表取締役社長直轄の部門として内部監査室を設置しており、年間の監査計画に基づき、監査役会、会計監査人及びISO事務局と相互連携した業務遂行の状況を監査しており、当該監査の結果については取締役及び監査役に報告する体制を構築しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

仰星監査法人

b. 業務を執行した公認会計士の氏名

指定社員 業務執行社員 新田 泰生

指定社員 業務執行社員 池上 由香

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士 10名、その他 4名であります。

d. 監査人の選定方針と理由

当社の監査法人の選定方針と理由は、監査法人としての独立性、専門性、品質管理体制を有している事、監査方法及び報酬等を総合的に勘案した結果、適任と判断したためであります。

なお、監査役会は、当社都合の場合の他、当該会計監査人が会社法・公認会計士法等の法令に違反・抵触した場合及び公序良俗に反する行為があったと判断した場合には、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。また取締役会は、監査役会の当該決定に基づき、会計監査人の解任又は不再任にかかる議案を株主総会に提案いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社は、監査役及び監査役会による監査法人の評価は行っておりませんが、監査体制、監査計画、監査実施状況などの意見交換等を定期的に行っております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	29,000	-	28,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	29,000	-	28,000	-

b. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数等を勘案した上で決定しております。

d. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて、必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

役員の報酬につきましては、役員報酬規程に従い、株主総会において決定された年額報酬限度額の範囲内で、取締役については取締役会の決議により決定し、監査役については監査役の協議により決定しております。

取締役の報酬限度額は2003年3月28日開催の第41期定時株主総会において、年額200,000千円以内(これには、使用人兼務取締役の使用人分給与は含みません。)と決議いただいております。

監査役の報酬限度額は2019年3月27日開催の第57期定時株主総会において、年額25,000千円以内と決議いただいております。

業績連動報酬である役員賞与につきましては、役員報酬規程に従い、株主総会において決定された年額報酬限度額の範囲内で、全社業績等を勘案し、取締役会の決議により決定しております。

また、退職慰労金につきましては、役員退職慰労金規程に従い、株主総会決議に基づき当社の定める一定の基準に従い相当の範囲内において贈呈しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数(人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	111,507	83,370	17,000	11,137	5
監査役 (社外監査役を除く。)	11,846	10,125	1,200	521	1
社外役員	9,150	7,350	1,800	-	6

(注) 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。



(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、取引先との取引関係の維持・強化及び当社の事業戦略等を総合的に勘案し、中長期的な企業価値の向上に資すると判断される株式を保有目的が純投資目的以外である投資株式として保有しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、主に取引先との取引関係の維持・強化を目的として投資株式を保有しております。保有の合理性に関しては、当社と取引先との信頼関係を維持しながら、個別銘柄ごとに便益や資本コスト、リスク等から総合的に勘案して保有の適否を検証し、取締役会にて判断しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	2	9,090
非上場株式以外の株式	5	305,120

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	1,713	取引先持株会を通じた株式の取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株) 貸借対照表計上額 (千円)	株式数(株) 貸借対照表計上額 (千円)		
大阪ガス(株)	112,236	112,236	取引関係の維持・強化	有
	234,685	225,482		
大和ハウス工業(株)	11,393	10,876	取引関係の維持・強化	無
	38,624	38,045	取引先持株会を通じた株式の取得	
住友不動産(株)	5,000	5,000	取引関係の維持・強化	無
	19,060	20,130		
(株)りそなホールディングス	15,100	15,100	取引関係の維持・強化	無 (注)2
	7,232	7,983		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	9,300	9,300	取引関係の維持・強化	無 (注)3
	5,516	5,002		

(注)1. 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性につきましては、前述のとおり保有意義及び投資先企業の業績等を総合的に検証することにより判断しております。

2. (株)りそなホールディングスは、当社株式を保有しておりませんが、同子会社である(株)りそな銀行は当社株式を保有しております。

3. (株)三菱UFJフィナンシャル・グループは、当社株式を保有しておりませんが、同子会社である(株)三菱UFJ銀行及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)は当社株式を保有しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2019年1月1日から2019年12月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2019年1月1日から2019年12月31日まで）の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,824,845	2,391,649
受取手形・完成工事未収入金等	6,411,657	6,431,240
たな卸資産	2,556,678,470	2,512,282
預け金	150,818	44,686
その他	456,077	359,505
貸倒引当金	2,784	3,077
流動資産合計	12,220,084	12,228,287
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	3,386,300	3,299,807
機械・運搬具(純額)	884,466	774,772
工具器具・備品(純額)	708,765	709,740
土地	3,960,812	3,924,323
リース資産(純額)	120,633	106,759
建設仮勘定	56,121	52,540
有形固定資産合計	7,152,413,399	7,138,833,943
無形固定資産		
リース資産	23,636	7,232
のれん	80,000	40,000
その他	12,859	13,675
無形固定資産合計	116,496	60,907
投資その他の資産		
投資有価証券	1,564,545	1,588,128
繰延税金資産	454,067	470,662
その他	536,457	491,749
貸倒引当金	47,396	44,842
投資その他の資産合計	1,507,674	1,505,698
固定資産合計	16,865,570	15,450,549
資産合計	29,085,654	27,678,836

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	2,312,217	1,779,634
短期借入金	3, 8 2,800,000	3, 8 2,420,000
1年内償還予定の社債	-	300,000
1年内返済予定の長期借入金	3 1,037,012	3 947,024
リース債務	83,100	52,428
未払法人税等	151,206	260,971
未成工事受入金	2,245,597	2,065,954
賞与引当金	141,912	136,711
役員賞与引当金	16,000	20,300
完成工事補償引当金	165,354	182,310
工事損失引当金	5 31,343	-
預り金	292,095	236,651
資産除去債務	42,496	63,066
その他	533,292	585,432
<b>流動負債合計</b>	<b>9,851,628</b>	<b>9,050,486</b>
<b>固定負債</b>		
社債	300,000	-
長期借入金	3 4,238,878	3 2,908,906
リース債務	62,302	60,644
退職給付に係る負債	490,441	541,654
役員退職慰労引当金	79,656	91,891
資産除去債務	245,109	240,821
その他	407,325	370,685
<b>固定負債合計</b>	<b>5,823,713</b>	<b>4,214,604</b>
<b>負債合計</b>	<b>15,675,342</b>	<b>13,265,090</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	764,815	764,815
資本剰余金	705,825	705,825
利益剰余金	10,349,090	11,311,055
自己株式	110,121	110,378
<b>株主資本合計</b>	<b>11,709,608</b>	<b>12,671,317</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	54,427	61,386
退職給付に係る調整累計額	8,297	9,522
その他の包括利益累計額合計	46,129	51,863
<b>非支配株主持分</b>	<b>1,654,573</b>	<b>1,690,565</b>
<b>純資産合計</b>	<b>13,410,312</b>	<b>14,413,746</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>29,085,654</b>	<b>27,678,836</b>

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上高	29,470,596	29,887,483
売上原価	1, 2 23,199,925	2 23,458,463
売上総利益	6,270,671	6,429,020
販売費及び一般管理費	3 4,950,571	3 5,084,588
営業利益	1,320,100	1,344,431
営業外収益		
受取利息	8,010	8,503
受取配当金	8,751	8,218
受取保険金	3,847	4,149
持分法による投資利益	11,558	14,690
その他	21,865	31,594
営業外収益合計	54,034	67,155
営業外費用		
支払利息	42,136	32,545
社債利息	330	330
支払手数料	13,200	-
シンジケートローン手数料	18,224	500
その他	7,668	6,879
営業外費用合計	81,559	40,254
経常利益	1,292,575	1,371,332
特別利益		
固定資産売却益	4 2,809	4 454,319
保険解約返戻金	-	29,088
特別利益合計	2,809	483,408
特別損失		
減損損失	7 154,365	7 294,157
固定資産売却損	5 6,191	-
固定資産除却損	6 30,072	6 4,830
投資有価証券評価損	284	-
特別損失合計	190,915	298,987
税金等調整前当期純利益	1,104,470	1,555,753
法人税、住民税及び事業税	420,454	458,960
法人税等調整額	52,566	19,155
法人税等合計	367,888	439,805
当期純利益	736,582	1,115,947
非支配株主に帰属する当期純利益	23,758	44,657
親会社株主に帰属する当期純利益	712,823	1,071,290

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
当期純利益	736,582	1,115,947
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24,665	6,959
退職給付に係る調整額	2,770	1,225
その他の包括利益合計	27,436	5,733
包括利益	709,145	1,121,681
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	685,386	1,077,024
非支配株主に係る包括利益	23,758	44,657

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	764,815	705,825	9,778,391	109,912	11,139,119
当期変動額					
剰余金の配当			142,125		142,125
親会社株主に帰属する当期純利益			712,823		712,823
自己株式の取得				209	209
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	570,698	209	570,489
当期末残高	764,815	705,825	10,349,090	110,121	11,709,608

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	79,092	5,526	73,566	1,639,480	12,852,166
当期変動額					
剰余金の配当					142,125
親会社株主に帰属する当期純利益					712,823
自己株式の取得					209
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,665	2,770	27,436	15,092	12,343
当期変動額合計	24,665	2,770	27,436	15,092	558,145
当期末残高	54,427	8,297	46,129	1,654,573	13,410,312

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	764,815	705,825	10,349,090	110,121	11,709,608
当期変動額					
剰余金の配当			109,324		109,324
親会社株主に帰属する当期純利益			1,071,290		1,071,290
自己株式の取得				257	257
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	961,965	257	961,708
当期末残高	764,815	705,825	11,311,055	110,378	12,671,317

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	54,427	8,297	46,129	1,654,573	13,410,312
当期変動額					
剰余金の配当					109,324
親会社株主に帰属する当期純利益					1,071,290
自己株式の取得					257
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,959	1,225	5,733	35,991	41,725
当期変動額合計	6,959	1,225	5,733	35,991	1,003,434
当期末残高	61,386	9,522	51,863	1,690,565	14,413,746



## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,104,470	1,555,753
減価償却費	575,478	461,184
減損損失	154,365	294,157
のれん償却額	40,000	40,000
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,288	2,261
賞与引当金の増減額(は減少)	15,549	5,201
役員賞与引当金の増減額(は減少)	9,400	4,300
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	27,586	16,956
工事損失引当金の増減額(は減少)	8,656	31,343
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	27,726	49,447
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	15,749	12,235
受取利息及び受取配当金	16,762	16,721
保険解約返戻金	-	29,088
支払利息及び社債利息	42,466	32,875
支払手数料	13,200	-
シンジケートローン手数料	18,224	500
持分法による投資損益(は益)	11,558	14,690
固定資産売却損益(は益)	3,381	454,319
固定資産除却損	30,072	4,830
売上債権の増減額(は増加)	344,066	200,583
たな卸資産の増減額(は増加)	358,768	556,262
仕入債務の増減額(は減少)	200,209	532,582
未成工事受入金の増減額(は減少)	464,906	179,642
その他	58,515	165,790
小計	1,767,223	1,727,858
利息及び配当金の受取額	18,714	19,665
利息の支払額	42,181	32,717
支払手数料の支払額	13,200	-
シンジケートローン手数料の支払額	18,224	500
法人税等の支払額	360,515	352,849
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,351,816	1,361,456
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	120,211	60
定期預金の払戻による収入	200,213	40,060
有形固定資産の取得による支出	749,613	419,630
有形固定資産の売却による収入	1,220,432	1,537,534
無形固定資産の取得による支出	535	3,368
投資有価証券の取得による支出	2,237	1,768
資産除去債務の履行による支出	8,227	-
その他	208	2,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	540,029	1,155,211

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	900,000	380,000
長期借入れによる収入	2,100,000	420,000
長期借入金の返済による支出	2,410,704	1,839,960
リース債務の返済による支出	128,643	97,777
配当金の支払額	142,057	109,336
非支配株主への配当金の支払額	8,666	8,666
自己株式の取得による支出	209	257
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,490,279</b>	<b>2,015,997</b>
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	401,565	500,671
現金及び現金同等物の期首残高	1,509,098	1,910,664
現金及び現金同等物の期末残高	1,910,664	2,411,335

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

子会社はすべて連結の範囲に含めております。

当該子会社はセキスイハイム山陽(株)、(株)リライフ及び三樹エンジニアリング(株)の3社であります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社はハイデッキ(株)1社であります。

同社の決算日は3月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たって、9月30日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結決算上必要な調整を行っております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、セキスイハイム山陽(株)及び(株)リライフの決算日は3月31日、三樹エンジニアリング(株)の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たって、3月31日決算日の連結子会社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ. たな卸資産

販売用不動産

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

商品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

材料貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・構築物 5～65年

機械・運搬具 5～17年

工具器具・備品 3～20年

ロ. 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)による定額法に基づいております。

ハ. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

- (3) 繰延資産の処理方法  
社債発行費  
支出時に全額費用として処理しております。
- (4) 引当金の計上基準
- イ．貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ．賞与引当金  
従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。
- ハ．役員賞与引当金  
役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ニ．完成工事補償引当金  
完成工事について無償で行う補修費用に備えるため、過去の一定期間における実績を基礎に将来の補償見込を加味して計上しております。  
また、特定物件については工事費の発生見込額を計上しております。
- ホ．工事損失引当金  
当連結会計年度末における手持工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、当該損失見込額を計上しております。
- ヘ．役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。
- (5) 退職給付に係る会計処理の方法
- イ．退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
- ロ．数理計算上の差異の費用処理方法  
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
- ハ．小規模企業等における簡便法の採用  
連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (6) 重要な収益及び費用の計上基準
- 完成工事高及び完成工事原価の計上基準
- イ．当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を適用しております。
- ロ．その他の工事  
工事完成基準を適用しております。
- (7) のれんの償却方法及び償却期間  
のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
手許現金、随時引き出し可能な預金及び預け金、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。ただし、控除対象外消費税等は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会( IASB )及び米国財務会計基準審議会( FASB )は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」( IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606 )を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年12月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」203,116千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」454,067千円に含めて表示しております。

## (連結貸借対照表関係)

1. 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
投資有価証券(株式)	231,714千円	243,471千円

2. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
販売用不動産	3,407,394千円	2,941,013千円
商品	10,787	11,874
未成工事支出金	2,162,357	2,070,800
材料貯蔵品	97,931	98,593
計	5,678,470	5,122,282

3. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
建物・構築物	957,331千円	457,845千円
土地	3,580,023	3,566,713
計	4,537,355	4,024,559

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
短期借入金	550,000千円	320,000千円
1年内返済予定の長期借入金	506,780	476,792
長期借入金	3,331,278	2,276,538
計	4,388,058	3,073,330

4. 保証債務

下記の債務に対して、保証を行っております。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
ユニット住宅購入者が 利用する住宅ローン	1,108,990千円	1,194,410千円

5. 工事損失引当金

損失の発生が見込まれる工事契約に係るたな卸資産(未成工事支出金)と工事損失引当金は、相殺せず  
に両建て表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係るたな卸資産(未成工事支出金)の  
うち、工事損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
たな卸資産(未成工事支出金)	21,591千円	-千円

6. 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、前連結会計年度の末日及び当連結会計年度の末日  
が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。連結会計年度末日  
満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
受取手形	9,287千円	540千円

7. 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	5,360,107千円	4,803,523千円

8. 当社及び連結子会社（セキスイハイム山陽(株)、(株)リブライフ、三樹エンジニアリング(株)）においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行13行と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
当座貸越契約極度額	10,200,000千円	10,350,000千円
借入実行残高	2,700,000	2,320,000
差引額	7,500,000	8,030,000

(連結損益計算書関係)

1. 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額	11,343千円	- 千円

2. 期末たな卸高は、収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損（洗替法による戻入額相殺後の額）が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上原価に含まれているたな卸資産評価損	6,784千円	21,691千円

3. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
給与手当及び賞与	1,917,714千円	2,004,234千円
役員退職慰労引当金繰入額	21,361	20,402
役員賞与引当金繰入額	16,000	20,300
賞与引当金繰入額	110,388	105,708
退職給付費用	99,530	98,624
貸倒引当金繰入額	-	292

4. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物・構築物	- 千円	144,048千円
土地	2,809	310,271
計	2,809	454,319

5. 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物・構築物	2,134千円	- 千円
土地	4,057	-
計	6,191	-

6. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物・構築物	1,898千円	3,492千円
機械・運搬具	-	0
工具器具・備品	53	578
リース資産	2,570	759
建設仮勘定	25,550	-
計	30,072	4,830

7. 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
大阪府河内長野市	事業用資産	建物・構築物	154,365

当社グループは、賃貸不動産については物件ごとにグルーピングを行い、それ以外の資産については損益管理を合理的に行える事業単位で資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、売却の意思決定をした事業用資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は売却見込額による正味売却価額により測定しております。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
兵庫県神戸市	事業用資産	建物・構築物	9,266
		土地	104,468
兵庫県姫路市	共用資産	土地	150,011
兵庫県神戸市	事業用資産	建物・構築物	28,420
		工具器具・備品	1,480
		無形固定資産	510

当社グループは、賃貸不動産については物件ごとにグルーピングを行い、それ以外の資産については損益管理を合理的に行える事業単位で資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、売却及び店舗撤退の意思決定をした事業用資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。また、本社移転計画完了後に、用途変更を行う共用資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、売却見込額による正味売却価額、または不動産鑑定評価額に基づく正味売却価額により測定しております。



(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	35,780千円	10,058千円
組替調整額	194	-
税効果調整前	35,586	10,058
税効果額	10,920	3,099
その他有価証券評価差額金	24,665	6,959
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	2,079	325
組替調整額	1,911	1,439
税効果調整前	3,991	1,765
税効果額	1,220	539
退職給付に係る調整額	2,770	1,225
その他の包括利益合計	27,436	5,733

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年 1月 1日 至 2018年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	1,153,263	-	-	1,153,263
合計	1,153,263	-	-	1,153,263
自己株式				
普通株式 (注)	59,978	40	-	60,018
合計	59,978	40	-	60,018

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加40株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年3月28日 定時株主総会	普通株式	87,462	80	2017年12月31日	2018年3月29日
2018年7月30日 取締役会	普通株式	54,662	50	2018年6月30日	2018年8月31日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年3月27日 定時株主総会	普通株式	54,662	利益剰余金	50	2018年12月31日	2019年3月28日

当連結会計年度（自 2019年 1月 1日 至 2019年12月31日）

1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	1,153,263	-	-	1,153,263
合計	1,153,263	-	-	1,153,263
自己株式				
普通株式 (注)	60,018	63	-	60,081
合計	60,018	63	-	60,081

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加63株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2．新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3．配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年3月27日 定時株主総会	普通株式	54,662	50	2018年12月31日	2019年3月28日
2019年7月29日 取締役会	普通株式	54,662	50	2019年6月30日	2019年8月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年3月25日 定時株主総会	普通株式	98,386	利益剰余金	90	2019年12月31日	2020年3月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
現金預金	1,824,845千円	2,391,649千円
預け金	150,818	44,686
預入期間が3カ月を超える定期預金	65,000	25,000
現金及び現金同等物	1,910,664	2,411,335

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、住宅事業における住宅展示場(建物・構築物)、全社におけるリース車輛及びサーバー機器(機械・運搬具、工具器具・備品)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計方針に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、経営計画に照らして必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。短期的な運転資金については、銀行借入により調達しております。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金及び社債は、営業取引に係る資金調達であり、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、与信管理規程に従い、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき、担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（2018年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	1,824,845	1,824,845	-
(2) 受取手形・完成工事未収入金等 貸倒引当金(*)	4,112,657 2,784		
	4,109,872	4,109,872	-
(3) 投資有価証券	323,740	323,740	-
資産計	6,258,458	6,258,458	-
(1) 支払手形・工事未払金等	2,312,217	2,312,217	-
(2) 短期借入金	2,800,000	2,800,000	-
(3) 未払法人税等	151,206	151,206	-
(4) 社債(1年内償還予定の社債含む)	300,000	300,000	-
(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	5,275,890	5,275,890	-
(6) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)	145,403	145,403	0
負債計	10,984,716	10,984,717	0

(\*) 受取手形・完成工事未収入金等に係る貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（2019年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	2,391,649	2,391,649	-
(2) 受取手形・完成工事未収入金等 貸倒引当金(*)	4,313,240 3,077		
	4,310,162	4,310,162	-
(3) 投資有価証券	335,567	335,567	-
資産計	7,037,379	7,037,379	-
(1) 支払手形・工事未払金等	1,779,634	1,779,634	-
(2) 短期借入金	2,420,000	2,420,000	-
(3) 未払法人税等	260,971	260,971	-
(4) 社債(1年内償還予定の社債含む)	300,000	300,000	-
(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	3,855,930	3,855,930	-
(6) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)	113,072	113,007	65
負債計	8,729,609	8,729,543	65

(\*) 受取手形・完成工事未収入金等に係る貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金預金、(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形・工事未払金等、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 社債(1年内償還予定の社債含む)、(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)、(6) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)

社債及び変動金利による長期借入金につきましては、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利による長期借入金及びリース債務につきましては、元利金の合計額を同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
投資有価証券		
非上場株式	9,090	9,090
関連会社株式	231,714	243,471

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2018年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	1,824,845	-	-	-
受取手形・完成工事未収入金等	4,112,657	-	-	-
合計	5,937,502	-	-	-

当連結会計年度(2019年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	2,391,649	-	-	-
受取手形・完成工事未収入金等	4,313,240	-	-	-
合計	6,704,889	-	-	-

4. 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2018年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,800,000	-	-	-	-	-
社債	-	300,000	-	-	-	-
長期借入金	1,037,012	1,007,012	1,285,463	1,214,840	692,477	39,086
リース債務	83,100	36,519	15,425	7,213	2,486	657
合計	3,920,112	1,343,531	1,300,888	1,222,053	694,963	39,743

当連結会計年度(2019年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,420,000	-	-	-	-	-
社債	300,000	-	-	-	-	-
長期借入金	947,024	821,475	619,852	1,039,363	364,094	64,122
リース債務	52,428	32,069	24,023	3,894	657	-
合計	3,719,452	853,544	643,875	1,043,257	364,751	64,122

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	311,108	233,368	77,739
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	12,413	11,569	843
	小計	323,521	244,938	78,583
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	219	219	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	219	219	-
合計		323,740	245,157	78,583

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額9,090千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	313,163	227,947	85,215
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	15,171	11,624	3,546
	小計	328,334	239,571	88,762
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	7,232	7,353	120
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	7,232	7,353	120
合計		335,567	246,925	88,641

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額9,090千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券について284千円(その他有価証券の株式)の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。



(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、非積立型の確定給付型の制度として退職一時金制度を、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。また、連結子会社においては、退職一時金制度及び確定拠出型の中小企業退職金共済制度、特定退職金共済制度等に参加しております。

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付にかかる期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
退職給付債務の期首残高	454,732千円	490,441千円
勤務費用	59,125	71,735
利息費用	579	610
数理計算上の差異の発生額	5,903	3,204
退職給付の支払額	29,898	24,337
退職給付債務の期末残高	490,441	541,654

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
非積立型制度の退職給付債務	490,441千円	541,654千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	490,441	541,654
退職給付に係る負債	490,441	541,654
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	490,441	541,654

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
勤務費用	59,125千円	71,735千円
利息費用	579	610
数理計算上の差異の費用処理額	1,911	1,439
確定給付制度に係る退職給付費用	61,616	73,784

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
数理計算上の差異	3,991千円	1,765千円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
未認識数理計算上の差異	11,952千円	13,717千円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
割引率	0.3%	0.3%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度49,934千円、当連結会計年度47,209千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	46,877千円	45,103千円
たな卸資産評価減	21,403	29,290
未払事業税	5,237	14,182
完成工事補償引当金	56,565	62,678
工事損失引当金	9,935	-
貸倒引当金	14,643	14,490
役員退職慰労引当金	25,881	29,970
退職給付に係る負債	157,717	174,740
固定資産評価損	347,718	281,437
ゴルフ会員権評価損	3,850	3,850
資産除去債務	90,781	90,871
未実現利益の消去	54,763	54,829
その他	119,771	105,094
小計	955,148	906,541
評価性引当額 (注)	422,007	355,707
合計	533,141	550,834
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	19,488	16,508
その他有価証券評価差額金	24,155	27,255
持分法適用関連会社の留保利益	35,429	36,406
合計	79,073	80,171
繰延税金資産の純額	454,067	470,662

(注) 繰延税金資産から控除された額(評価性引当額)に重要な変動が生じております。当該変動の主な内容は、当連結会計年度において賃貸物件を売却したことに伴い、評価性引当額が減少したことによるものです。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	1.0
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.4	0.3
役員賞与損金不算入額	0.7	0.3
住民税均等割等	0.8	0.5
評価性引当額	0.5	4.3
その他	0.6	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.3	28.3

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務及び住宅展示場のリース契約に基づくリース資産の処分義務等があります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から3～34年と見積り、割引率は0.000～2.031%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
期首残高	292,906千円	287,606千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	2,500	2,500
時の経過による調整額	4,025	4,096
資産除去債務の履行による減少額	11,824	5,881
その他増減額(は減少)	-	15,568
期末残高	287,606	303,888

## (賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、兵庫県その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸住宅を所有しております。なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の連結子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
賃貸等不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	8,583,134	7,188,891
期中増減額	1,394,242	1,153,263
期末残高	7,188,891	6,035,627
期末時価	7,625,099	6,282,994
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	1,438,766	1,399,003
期中増減額	39,763	1,399,003
期末残高	1,399,003	-
期末時価	1,462,874	-

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 賃貸等不動産の期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は賃貸用施設の改修(8,068千円)であり、主な減少額は賃貸用施設の売却(1,079,849千円)及び減価償却費によるものであります。当連結会計年度の主な減少額は賃貸用施設の売却(1,014,155千円)及び減価償却費によるものであります。
3. 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産の期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額は減価償却費によるものであります。当連結会計年度の主な減少額は、用途変更による振替(1,212,149千円)及び減価償却費によるものであります。
4. 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標等を用いて調整した金額によっております。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収益	856,854	735,594
賃貸費用	291,455	229,973
差額	565,398	505,621
その他(売却損益等)	153,172	340,585
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産		
賃貸収益	22,250	-
賃貸費用	61,339	-
差額	39,089	-
その他(売却損益等)	-	-

- (注) 1. 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の連結子会社が使用している部分を含むため、当該部分の賃貸収益は、計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。
2. 賃貸等不動産のその他(売却損益等)のうち、当連結会計年度の主な増加額は固定資産売却益(特別利益として454,319千円)、主な減少額は減損損失(特別損失として113,734千円)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社及び子会社に製品・サービス別の事業部門を置き、各事業部門は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「建設事業」、「設備事業」、「住宅事業」及び「不動産賃貸事業」の4つを報告セグメントとしております。

「建設事業」は、建築工事、土木工事、都市ガス導管敷設工事を行っております。「設備事業」は、給排水工事、空調衛生設備工事、ガス・住設機器工事を行っております。「住宅事業」は、戸建住宅及び集合住宅の建築・販売、戸建住宅・宅地分譲、住宅リフォーム工事を行っております。「不動産賃貸事業」は、不動産物件の賃貸及び管理を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、棚卸資産の評価基準を除き、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

また、本社移転計画完了後に、用途変更を行う共用資産の損益について、セグメント区分の見直しを行っております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	建設	設備	住宅	不動産賃貸	計				
売上高									
(1)外部顧客への 売上高	11,216,989	4,802,645	11,148,928	1,586,512	28,755,075	715,521	29,470,596	-	29,470,596
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,145	320,796	7,268	7,825	339,036	-	339,036	339,036	-
計	11,220,134	5,123,442	11,156,196	1,594,338	29,094,112	715,521	29,809,633	339,036	29,470,596
セグメント利益又 は損失( )	615,297	185,755	186,736	473,842	1,088,158	226,703	1,314,862	5,237	1,320,100
セグメント資産	5,747,613	3,140,926	7,301,168	7,435,382	23,625,091	2,749,535	26,374,626	2,711,028	29,085,654
その他の項目									
減価償却費	57,331	27,350	194,782	144,857	424,322	146,814	571,136	4,262	566,874
のれん償却額	40,000	-	-	-	40,000	-	40,000	-	40,000
減損損失	-	-	-	154,365	154,365	-	154,365	-	154,365
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	398,115	186,085	115,394	10,950	710,546	11,449	721,996	-	721,996

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理店業、飲食事業、太陽光発電事業を含んでおります。

2. (1) セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額2,711,028千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産2,902,896千円及びセグメント間取引消去であります。

(3) 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない固定資産に係る未実現利益の消去であります。

3. セグメント利益または損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	建設	設備	住宅	不動産賃貸	計				
売上高									
(1)外部顧客への 売上高	10,840,382	5,288,126	11,499,543	1,552,927	29,180,979	706,504	29,887,483	-	29,887,483
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,511	310,984	7,547	7,016	328,059	-	328,059	328,059	-
計	10,842,893	5,599,110	11,507,090	1,559,943	29,509,039	706,504	30,215,543	328,059	29,887,483
セグメント利益又 は損失( )	641,233	204,541	117,065	392,156	1,120,866	220,986	1,341,853	2,578	1,344,431
セグメント資産	5,447,864	3,075,154	6,788,669	6,214,722	21,526,410	2,624,452	24,150,862	3,527,973	27,678,836
その他の項目									
減価償却費	56,412	28,361	157,312	87,549	329,636	128,854	458,491	4,028	454,463
のれん償却額	40,000	-	-	-	40,000	-	40,000	-	40,000
減損損失	-	-	30,411	113,734	144,145	-	144,145	150,011	294,157
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	46,169	252,120	127,463	6,650	432,404	6,983	439,388	-	439,388

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理店業、飲食事業、太陽光発電事業を含んでおります。

2. (1) セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額3,527,973千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産3,699,787千円及びセグメント間取引消去であります。

(3) 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない固定資産に係る未実現利益の消去であります。

3. セグメント利益または損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の国又は地域の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
大阪ガス株式会社	2,999,928	建設事業、設備事業

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の国又は地域の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
大阪ガス株式会社	3,094,698	建設事業、設備事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

(単位：千円)

	建設	設備	住宅	不動産賃貸	その他	全社・消去	合計
当期償却額	40,000	-	-	-	-	-	40,000
当期末残高	80,000	-	-	-	-	-	80,000

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

(単位：千円)

	建設	設備	住宅	不動産賃貸	その他	全社・消去	合計
当期償却額	40,000	-	-	-	-	-	40,000
当期末残高	40,000	-	-	-	-	-	40,000

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）	当連結会計年度 （自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）
1株当たり純資産額	10,753円07銭	11,638円67銭
1株当たり当期純利益	652円02銭	979円93銭

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2．1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）	当連結会計年度 （自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	712,823	1,071,290
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	712,823	1,071,290
期中平均株式数（株）	1,093,259	1,093,236

（重要な後発事象）

該当事項はありません。



【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)リブライフ	子会社第4回無担保社債	年月日 2017. 1. 25	300,000	300,000 (300,000)	0.11	なし	年月日 2020. 1. 25

(注) 1. ( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
300,000	-	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,800,000	2,420,000	0.35	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,037,012	947,024	0.42	-
1年以内に返済予定のリース債務	83,100	52,428	1.24	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	4,238,878	2,908,906	0.35	2021年～2029年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	62,302	60,644	1.33	2021年～2024年
その他有利子負債	-	-	-	-
計	8,221,293	6,389,002	-	-

(注) 1. 平均利率については、借入金及びリース債務の期末残高に対する加重平均利率を用いております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	821,475	619,852	1,039,363	364,094
リース債務	32,069	24,023	3,894	657

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務	237,609	19,660	5,881	251,388
リース契約に基づくリース資産の処分義務	49,996	2,503	-	52,500
合計	287,606	22,164	5,881	303,888

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	8,505,268	15,618,996	23,093,077	29,887,483
税金等調整前四半期(当期) 純利益(千円)	587,998	750,841	1,626,794	1,555,753
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(千円)	365,658	556,226	1,200,545	1,071,290
1株当たり四半期(当期)純 利益(円)	334.47	508.79	1,098.15	979.93

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( ) (円)	334.47	174.31	589.36	118.23

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,039,696	1,814,226
受取手形	2,317,998	2,137,068
完成工事未収入金	3,595,154	2,689,514
販売用不動産	105,263	76,524
商品	2,484	2,536
未成工事支出金	1,142,685	829,689
材料貯蔵品	88,159	84,708
前払費用	26,771	24,833
未収入金	64,616	7,863
その他	41,644	49,479
貸倒引当金	2,700	2,800
流動資産合計	6,421,774	6,952,645
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,216,315	1,465,523
構築物	1,244,231	1,84,712
機械及び装置	884,466	773,899
車両運搬具	0	873
工具、器具及び備品	648,276	644,846
土地	1,529,943	1,476,089
リース資産	21,262	14,536
建設仮勘定	294	52,540
有形固定資産合計	9,261,113	7,804,021
無形固定資産		
ソフトウェア	3,217	4,585
リース資産	23,636	7,232
のれん	80,000	40,000
その他	3,741	3,741
無形固定資産合計	110,595	55,559
投資その他の資産		
投資有価証券	318,146	329,381
関係会社株式	358,617	358,617
出資金	14,241	14,241
会員権	20,397	20,397
差入保証金	70,097	67,858
長期前払費用	749	676
繰延税金資産	170,864	163,704
その他	37,162	31,162
貸倒引当金	42,663	42,459
投資その他の資産合計	947,613	943,580
固定資産合計	10,319,322	8,803,160
資産合計	16,741,096	15,755,806

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
工事未払金	1,684,441	1,290,032
短期借入金	3 1,050,000	3 600,000
1年内返済予定の長期借入金	1 637,488	1 537,492
リース債務	25,373	13,375
未払金	140,551	153,251
未払費用	39,381	38,407
未払法人税等	149,998	232,039
未払消費税等	87,728	72,490
未成工事受入金	951,955	586,569
預り金	115,169	124,989
賞与引当金	54,245	53,661
役員賞与引当金	15,000	20,000
完成工事補償引当金	14,224	7,800
工事損失引当金	22,500	-
その他	33,788	26,504
流動負債合計	5,021,845	3,756,614
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1 1,751,953	1 1,176,351
リース債務	24,209	10,833
退職給付引当金	191,443	192,984
役員退職慰労引当金	41,304	44,795
資産除去債務	216,279	220,238
その他	233,520	198,385
固定負債合計	2,458,709	1,843,588
負債合計	7,480,554	5,600,202
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	764,815	764,815
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	705,825	705,825
資本剰余金合計	705,825	705,825
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	17,368	17,368
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	4,000,000	4,000,000
繰越利益剰余金	3,830,291	4,719,038
利益剰余金合計	7,847,659	8,736,407
自己株式	110,121	110,378
株主資本合計	9,208,178	10,096,668
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	52,363	58,935
評価・換算差額等合計	52,363	58,935
純資産合計	9,260,541	10,155,603
負債純資産合計	16,741,096	15,755,806

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上高		
完成工事高	15,368,702	15,604,935
不動産事業等売上高	855,400	734,438
売上高合計	16,224,102	16,339,373
売上原価		
完成工事原価	13,147,552	13,288,646
不動産事業等売上原価	456,828	357,579
売上原価合計	13,604,381	13,646,226
売上総利益		
完成工事総利益	2,221,149	2,316,288
不動産事業等総利益	398,571	376,858
売上総利益合計	2,619,721	2,693,147
販売費及び一般管理費		
役員報酬	99,420	100,845
給料手当及び賞与	559,173	575,267
賞与引当金繰入額	23,529	23,510
退職給付費用	29,858	17,633
役員賞与引当金繰入額	15,000	20,000
役員退職慰労引当金繰入額	11,597	11,658
法定福利費	106,621	108,804
福利厚生費	22,874	25,730
減価償却費	122,406	118,003
消耗品費	3,424	2,934
水道光熱費	17,201	17,561
修繕費	35,921	42,229
広告宣伝費	16,704	18,153
会議費	2,986	2,567
事務用品費	16,535	18,314
交際費	56,685	60,504
通信費	21,217	22,207
旅費及び交通費	84,822	80,451
諸会費	8,372	8,377
研修費	9,640	5,517
車両費	7,999	6,798
租税公課	71,342	71,126
貸倒引当金繰入額	-	100
地代家賃	51,727	51,645
保険料	10,600	12,819
支払手数料	61,448	73,483
リース料	21,520	27,340
補修費	6,933	5,999
寄付金	3,572	3,670
雑費	41,290	43,488
戻入諸収入	39,943	44,347
販売費及び一般管理費合計	1,500,483	1,532,398
営業利益	1,119,237	1,160,749

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	332	306
受取配当金	1 23,592	1 24,052
受取保険金	2,261	3,877
その他	14,335	13,531
営業外収益合計	40,523	41,767
<b>営業外費用</b>		
支払利息	22,237	18,088
シンジケートローン手数料	18,224	500
その他	3,964	567
営業外費用合計	44,426	19,156
経常利益	1,115,334	1,183,360
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	-	2 454,319
特別利益合計	-	454,319
<b>特別損失</b>		
減損損失	4 154,365	4 263,745
固定資産除却損	3 1,689	-
特別損失合計	156,055	263,745
税引前当期純利益	959,278	1,373,934
法人税、住民税及び事業税	313,629	371,597
法人税等調整額	1,728	4,265
法人税等合計	315,358	375,862
当期純利益	643,920	998,071

【完成工事原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)		当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	(注) 2	1,826,661	13.9	1,391,968	10.5
労務費		789,368	6.0	706,261	5.3
外注費		9,389,357	71.4	10,040,172	75.5
経費		1,142,164	8.7	1,150,244	8.7
(うち人件費)		(364,666)	(2.8)	(388,874)	(2.9)
計		13,147,552	100.0	13,288,646	100.0

(注) 1. 原価計算の方法は、個別原価計算によっております。

2. 経費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
消耗品費(千円)	197,242	203,269
車両費(千円)	16,898	15,848
減価償却費(千円)	1,695	3,223

【不動産事業等売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)		当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	(注) 2	74,414	16.3	28,791	8.1
労務費		66	0.0	-	-
経費		382,346	83.7	328,787	91.9
計		456,828	100.0	357,579	100.0

(注) 1. 原価計算の方法は、個別原価計算によっております。

2. 経費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費(千円)	226,627	180,757
地代家賃(千円)	69,158	68,979

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								株主資本合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	764,815	705,825	705,825	17,368	4,000,000	3,328,495	7,345,864	109,912	8,706,592	
当期変動額										
剰余金の配当						142,125	142,125		142,125	
当期純利益						643,920	643,920		643,920	
自己株式の取得								209	209	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	501,795	501,795	209	501,586	
当期末残高	764,815	705,825	705,825	17,368	4,000,000	3,830,291	7,847,659	110,121	9,208,178	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	76,397	76,397	8,782,989
当期変動額			
剰余金の配当			142,125
当期純利益			643,920
自己株式の取得			209
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,033	24,033	24,033
当期変動額合計	24,033	24,033	477,552
当期末残高	52,363	52,363	9,260,541



当事業年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本								自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					
					別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	764,815	705,825	705,825	17,368	4,000,000	3,830,291	7,847,659	110,121	9,208,178	
当期変動額										
剰余金の配当						109,324	109,324		109,324	
当期純利益						998,071	998,071		998,071	
自己株式の取得								257	257	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	888,747	888,747	257	888,490	
当期末残高	764,815	705,825	705,825	17,368	4,000,000	4,719,038	8,736,407	110,378	10,096,668	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	52,363	52,363	9,260,541
当期変動額			
剰余金の配当			109,324
当期純利益			998,071
自己株式の取得			257
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	6,571	6,571	6,571
当期変動額合計	6,571	6,571	895,061
当期末残高	58,935	58,935	10,155,603

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 販売用不動産

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 商品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(3) 未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

(4) 材料貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	5～65年
機械及び装置	5～17年
工具、器具及び備品	3～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)による定額法に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 完成工事補償引当金

完成工事について無償で行う補修費用に備えるため、過去の一定期間における実績を基礎に将来の補償見込を加味して計上しております。

また、特定物件については工事費の発生見込額を計上しております。

(5) 工事損失引当金

当事業年度末における手持工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができず、当該損失見込額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次から費用処理しております。

(7) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく事業年度末要支給額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を適用しております。

(2) その他の工事

工事完成基準を適用しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。ただし、控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。

(3) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」57,141千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」170,864千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
建物	403,759千円	246千円
構築物	151,221	2,217
土地	2,024,106	1,846,144
計	2,579,086	1,848,609

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
1年内返済予定の長期借入金	332,988千円	292,992千円
長期借入金	1,300,078	773,976
計	1,633,066	1,066,968

2. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、前事業年度の末日及び当事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
受取手形	863千円	540千円

3. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行8行と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
当座貸越契約極度額	6,500,000千円	6,500,000千円
借入実行残高	950,000	500,000
差引額	5,550,000	6,000,000

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
関係会社からの受取配当金	15,290千円	16,268千円

2. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物・構築物	- 千円	144,048千円
土地	-	310,271
計	-	454,319

3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
リース資産	1,689千円	- 千円

4. 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
大阪府河内長野市	事業用資産	建物	154,365

当社は、賃貸不動産については物件ごとにグルーピングを行い、それ以外の資産については損益管理を合理的に行える事業単位で資産のグルーピングを行っております。

当事業年度において、売却の意思決定をした事業用資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は売却見込額による正味売却価額により測定しております。

当事業年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
兵庫県神戸市	事業用資産	建物	9,266
		土地	104,468
兵庫県姫路市	共用資産	土地	150,011

当社は、賃貸不動産については物件ごとにグルーピングを行い、それ以外の資産については損益管理を合理的に行える事業単位で資産のグルーピングを行っております。

当事業年度において、売却の意思決定をした事業用資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。また、本社移転計画完了後に、用途変更を行う共用資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は、売却見込額による正味売却価額、または不動産鑑定評価額に基づく正味売却価額により測定しております。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式346,390千円、関連会社株式12,226千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式346,390千円、関連会社株式12,226千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	16,588千円	16,409千円
たな卸資産評価減	14,384	11,367
未払事業税	9,652	13,708
完成工事補償引当金	4,349	2,385
工事損失引当金	6,880	-
未払事業所税	1,919	1,885
貸倒引当金	13,872	13,840
役員退職慰労引当金	12,630	13,698
退職給付引当金	58,543	59,014
固定資産評価損	332,036	265,755
ゴルフ会員権評価損	825	825
資産除去債務	66,138	67,348
その他	26,311	26,215
小計	564,132	492,456
評価性引当額	356,945	290,712
合計	207,187	201,743
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	13,256	12,077
その他有価証券評価差額金	23,066	25,961
合計	36,322	38,038
繰延税金資産の純額	170,864	163,704

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	1.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.5	0.4
役員賞与損金不算入額	0.8	0.3
住民税均等割等	0.7	0.5
評価性引当額	-	4.8
その他	0.2	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.9	27.4

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他 有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
		大阪ガス(株)	112,236	234,685
大和ハウス工業(株)	11,393	38,624		
住友不動産(株)	5,000	19,060		
(株)りそなホールディングス	15,100	7,232		
(株)ホロニック	100	9,040		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	9,300	5,516		
(株)姫路建設会館	130	50		
	計	153,259	314,210	

【その他】

投資有価証券	その他 有価証券	種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
		(追加型株式投資信託) ファンド・オブ・オールスター・ファンズ	12,972,469	15,171
	計	12,972,469	15,171	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	4,553,577	1,280	1,178,101 (9,266)	3,376,756	1,911,232	101,263	1,465,523
構築物	410,023	-	225,277	184,745	100,033	16,843	84,712
機械及び装置	1,948,336	-	-	1,948,336	1,174,436	110,566	773,899
車両運搬具	3,973	970	1,557	3,385	2,512	97	873
工具、器具及び備品	775,340	6,025	10,875	770,490	125,644	8,393	644,846
土地	5,299,430	4,311	536,652 (254,479)	4,767,089	-	-	4,767,089
リース資産	34,198	-	-	34,198	19,662	6,726	14,536
建設仮勘定	294	52,995	750	52,540	-	-	52,540
有形固定資産計	13,025,175	65,583	1,953,216 (263,745)	11,137,542	3,333,521	243,889	7,804,021
無形固定資産							
ソフトウェア	9,354	3,058	-	12,412	7,826	1,689	4,585
リース資産	102,877	-	33,549	69,328	62,096	16,404	7,232
のれん	200,000	-	-	200,000	160,000	40,000	40,000
その他	3,741	-	-	3,741	-	-	3,741
無形固定資産計	315,973	3,058	33,549	285,481	229,922	58,094	55,559
長期前払費用	1,450	-	-	1,450	773	72	676

(注) 1. 当期減少額欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期減少額の内訳は次のとおりであります。

建物	売却に伴う減少	1,168,835千円
構築物	売却に伴う減少	225,277千円
土地	売却に伴う減少	282,173千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(注)1	45,363	2,800	-	2,903	45,259
賞与引当金	54,245	53,661	54,245	-	53,661
役員賞与引当金	15,000	20,000	15,000	-	20,000
完成工事補償引当金(注)2	14,224	7,800	2,444	11,779	7,800
工事損失引当金(注)3	22,500	3,600	-	26,100	-
役員退職慰労引当金	41,304	11,658	8,167	-	44,795

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」の金額のうち、2,700千円は一般債権の貸倒実績率による洗替額、203千円は債権の回収による戻入額であります。

2. 完成工事補償引当金の「当期減少額(その他)」のうち、7,600千円は補償実績率による洗替額、4,179千円は戻入額であります。

3. 工事損失引当金の当期減少額の「その他」の金額は、引当金対象工事の損益改善による戻入額であります。



( 2 ) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

( 3 ) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	株主優待制度 毎年6月30日及び12月31日現在の100株（1単元）以上の株主に対し、 「株式会社サラダコスモの商品詰合せ」を贈呈。

（注）当社定款の定めにより、単元未満株主は、以下に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 取得請求権付株式の取得を請求する権利
3. 募集株式または募集新株予約権の割当を受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第57期）（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）2019年3月28日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年3月28日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第58期第1四半期）（自 2019年1月1日 至 2019年3月31日）2019年5月14日近畿財務局長に提出

（第58期第2四半期）（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）2019年8月9日近畿財務局長に提出

（第58期第3四半期）（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）2019年11月13日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2019年3月29日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

2019年8月9日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び第19号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年3月25日

美樹工業株式会社

取締役会 御中

### 仰星監査法人

指定社員 公認会計士 新田 泰生 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 池上 由香 印  
業務執行社員

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている美樹工業株式会社の2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、美樹工業株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、美樹工業株式会社の2019年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、美樹工業株式会社が2019年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年3月25日

美樹工業株式会社

取締役会 御中

### 仰星監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 新田 泰生 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 池上 由香 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている美樹工業株式会社の2019年1月1日から2019年12月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、美樹工業株式会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。